




AK77-333

オンラインマニュアル

DOC. NO.: AK77333-OL-J0205C

マニュアル目次

AK77-333	1
マニュアル目次	2
注意事項	8
インストールの前に	9
製品概要	10
製品機能の特長	11
クイックインストールの手順	15
マザーボード全体図	16
ブロックダイアグラム	17
ハードウェアのインストール	18
CMOS データのクリア	19
CPU のインストール	20
JP21 による FSB/PCI クロックレシオ設定	22
CPU ジャンパーレス設計	23
CPU 及びケースファンコネクタ(ハードウェアモニタ機能付き)	28
DIMM ソケット	29
システム及び RAM への電源表示 LED	31
フロントパネルコネクタ	32

ATX 電源コネクタ	33
AC 電源自動回復機能	34
IDE 及びフロッピーコネクタの接続	35
 S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)コネクタ	37
 高音質の 5.1 チャンネルオーディオ効果	38
IrDA コネクタ	39
WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム) コネクタ	40
WOL (ウェイクオン LAN) 機能	43
AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)拡張スロット	45
CNR(コミュニケーション及びネットワークライザー)拡張スロット	46
PC99 カラーコード準拠バックパネル	47
第 2 USB ポートをサポート	48
 第 3 及び第 4 USB2.0 ポートをサポート (AK77-333(USB2.0)のみ、オプション)	49
ケース開放センサーコネクタ	50
CD オーディオコネクタ	51
AUX 入カコネクタ	52
フロントオーディオコネクタ	53
ダイハード BIOS (100%ウイルス防止機能)	54
Dr. LED コネクタ (アップグレード オプション)	57

バッテリー不要及び耐久設計	59
過電流保護	60
ハードウェアモニタ機能	61
リセット可能なヒューズ	62
2200 μ F 低 ESR コンデンサー	63
レイアウト (周波数分離ウォール).....	64
ノースブリッジのファンシンク	65
ドライバ及びユーティリティ	66
Bonus CD ディスクからのオートランメニュー	67
Windows 95 のインストール	68
Windows 98 のインストール	69
Windows [®] 98 SE, Windows [®] ME 及び Windows [®] 2000 のインストール	70
VIA 4 in 1 ドライバのインストール	71
オンボードサウンドドライバのインストール.....	72
ハードウェアモニタユーティリティのインストール	73
NEW! USB2.0 ドライバのインストール (AK77-333(USB2.0)のみ, オプション).....	74
ACPI ハードディスクサスペンド.....	77
ACPI サスペンドトゥーRAM (STR).....	81
AWARD BIOS	83



Award™ BIOS セットアッププログラムの使用方法	84
BIOS セットアップの起動方法	86
NEW! Windows 環境における BIOS のアップグレード	87
オーバークロック	89
VGA カード及びハードディスク	90
用語解説	91
AC97 サウンドコーデック	91
ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース)	91
AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)	91
AMR (オーディオ/モデムライザー)	92
AOpen Bonus Pack CD	92
APM (アドバンスドパワーマネジメント)	92
ATA (AT アタッチメント)	92
ATA/66	92
ATA/100	93
BIOS (基本入出力システム)	93
Bus Master IDE (DMA モード)	93
CNR (コミュニケーション及びネットワーキングライザー)	93
CODEC (符号化および復号化)	94

DDR (ダブルデータレーテッド) SDRAM.....	94
DIMM (デュアルインライン メモリモジュール).....	94
DMA (ダイレクトメモリアクセス).....	94
ECC (エラーチェックおよび訂正).....	95
EDO (拡張データ出力)メモリ.....	95
EEPROM (電子式消去可能プログラマブル ROM).....	95
EPROM (消去可能プログラマブル ROM).....	95
EV6 バス.....	96
FCC DoC (Declaration of Conformity).....	96
FC-PGA (フリップチップ-ピングリッド配列).....	96
フラッシュ ROM.....	96
FSB (フロントサイドバス)クロック.....	97
°C Bus.....	97
IEEE 1394.....	97
パリティビット.....	98
PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM).....	98
PC-100 DIMM.....	98
PC-133 DIMM.....	98
PC-1600 および PC-2100 DDR DRAM.....	99

PCI (ペリフェラルコンポーネントインタフェース)バス	99
PDF フォーマット	99
PnP(プラグアンドプレイ)	99
POST (電源投入時の自己診断)	99
RDRAM (Rambus DRAM)	100
RIMM (Rambus インラインメモリモジュール)	100
SDRAM (同期 DRAM)	100
シャドウ E ² PROM	100
SIMM (シングルインラインメモリモジュール)	101
SMBus (システムマネジメントバス)	101
SPD (既存シリアル検出)	101
Ultra DMA	102
USB (ユニバーサルシリアルバス)	102
VCM(バーチャルチャンネルメモリ)	103
ZIP ファイル	103
トラブルシューティング	104
テクニカルサポート	108
製品の登録	111
弊社へのご連絡	112

注意事項



Adobe、Adobe のロゴ、Acrobat は Adobe Systems Inc.の商標です。

AMD、AMD のロゴ、Athlon および Duron は Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Intel、Intel のロゴ、Intel Celeron, PentiumII, PentiumIII は Intel Corporation.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows のロゴは、米国または他国の Microsoft Corporation の登録商標および商標です。

このマニュアル中の製品およびブランド名は全て、識別を目的とするために使用されており、各社の登録商標です。

このマニュアル中の製品仕様および情報は事前の通知なしに変更されることがあります。この出版物の改訂、必要な変更をする権限は AOpen にあります。製品およびソフトウェアを含めた、このマニュアルでの誤りや不正確な記述については AOpen は責任を負いかねます。

この出版物は著作権法により保護されています。全権留保。

AOpen Corp.の書面による許諾がない限り、この文書の一部をいかなる形式や方法でも、データベースや記憶装置への記憶などでも複製はできません。

Copyright© 1996-2002, AOpen Inc. All Rights Reserved.

インストールの前に



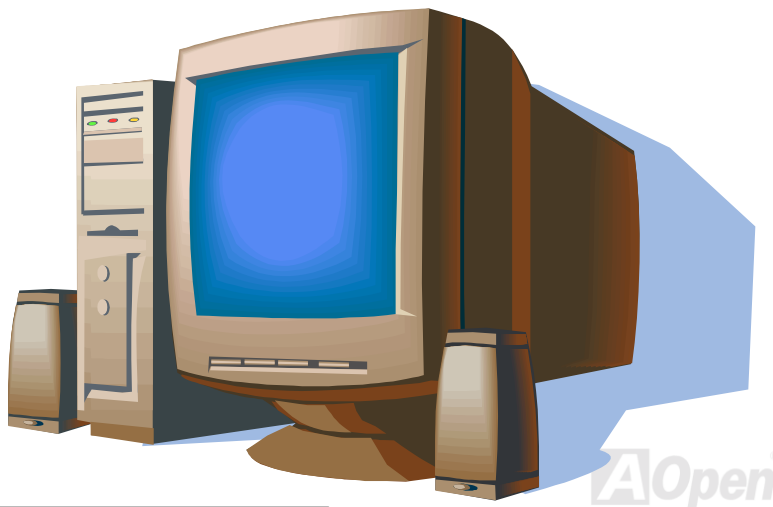
このオンラインマニュアルでは製品のインストール方法が紹介されています。有用な情報は後半の章に記載されています。将来のアップグレードやシステム設定変更に備え、このマニュアルは大切に保管しておいてください。このオンラインマニュアルは [PDF フォーマット](#) で記述されていますので、オンライン表示には **Adobe Acrobat Reader 4.0** を使用するようお勧めします。このソフトは [Bonus CD ディスク](#) にも収録されていますし、[Adobe ウェブサイト](#) から無料ダウンロードもできます。

当オンラインマニュアルは画面上で表示するよう最適化されていますが、印刷出力も可能です。この場合、紙サイズは **A4** を指定し、**1 枚に 2 ページ** を印刷するようにしてください。この設定は **ファイル > ページ設定** を選び、そしてプリンタドライバの指示に従ってください。

皆様の地球環境保護へのご協力に感謝いたします。

製品概要

この度は AOpen AK77-333 マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。AK77-333 は [VIA Apollo KT333 チップセット](#) 採用、ATX 規格の AMD[®] Socket 462 マザーボード(以下、M/B)です。高性能チップセット内蔵の AK77 Plus / AK77 Pro マザーボードは AMD[®] Socket 462 シリーズの Athlon[™] および Duron[™] プロセッサ、または 200/266MHz [EV6](#) システムバスをサポートしています。AGP 機能面では、一本の AGP スロットがあり、AGP 4X モードおよび最大 1056MB/秒までのパイプライン分割トランザクションロングバースト転送を実現します。バンド幅の広い 200/266MB/s 8 ビット V-Link ホストコントローラにより、[DDR266\(PC2100\)](#) 及び [DDR333\(PC2700\) DDR SDRAM](#) は AK77-333 マザーボードに搭載されることができるとともに、最大 3GB のメモリ容量が搭載可能です。オンボードの IDE コントローラは、[Ultra DMA 33/66/100](#) モードおよび最大 133MB/s の転送速度をサポートします。さらに、オプションの [コミュニケーションおよびネットワークライザー\(CNR\)](#) カードを利用する事で、単一の基板上でのオーディオ及びモデムの設定が自在に行えます。また、オンボードの [AC97 CODEC Realtek ALC650](#) チップセットにより、AK77-333 マザーボードで高性能かつすばらしいサラウンドステレオサウンドをお楽しみいただけます。さらに、当マザーボードは最大 480Mbps の転送レートを実現する USB 2.0 機能(USB3 及び USB4 コネクタのみ、オプション)をサポートしています。それでは AK77-333 マザーボードの全機能をご堪能ください。



AOpen

製品機能の特長

CPU

AMD[®] Socket 462 シリーズのプロセッサ、並びに Socket 462 テクノロジーに設計された200MHz 及び 266MHz [EV6 バス](#) クロックをサポートしています。

Athlon: 600MHz~1.4GHz

Duron: 600MHz~1.2GHz

AthlonXP: 1500+(1.3GHz)~2000+(1.667GHz)

チップセット

VIA Apollo KT333 はKT333 V-Link [DDR](#)ホストシステムコントローラおよび高統合型 V-Link クライアント PCI/LPC コントローラの VT8233A から構成されています。ホストシステムコントローラにより CPU, SDRAM, AGP バス, V-Link インタフェース間でのパイプライン、バースト転送及び同時データ転送動作がフルにサポートされています。VT8233A V-Link クライアントコントローラは PCI/LPC の高統合化コントローラであり、内部のバス構造は 66MHz PCI バスを利用しており、以前の PCI/ISA ブリッジチップに比べ、2 倍のバンド幅を提供します。VT8233A 統合化クライアント V-Link コントローラと V-Link インタフェースホスト・クライアント間での 200/266MB/s のバンド幅により、V-Link-PCI および V-Link-LPC コントローラが実現されます。5 本の PCI スロットがマスタとして自由に使用可能で、LPC バスおよび統合化された機能用のバスアービトレーション機能及びデコード機能もサポートされています。

Ultra DMA 66/100/133 Bus Master IDE

オンボードの PCI バスマスタ IDE コントローラにはコネクタ 2 個が接続され、2 チャンネルで 4 台の IDE 装置が使用可能です。サポートされるのは [Ultra DMA 33/66/100](#)、PIO モード 3 および 4、さらにバスマスタ IDE DMA モード 4、拡張 IDE 機器です。

拡張スロット

5 本の 32 ビット/33MHz PCI スロット、1 本の CNR スロット及び 1 本の AGP 4X スロットが含まれます。PCI ローカルバスのスループットは最大 132MB/s です。AK77-333 に装備されている [コミュニケーション&ネットワークライザー\(CNR\)](#) スロットにより、モデム/オーディオカード用の CNR インタフェースがサポートされています。[アクセラレーテッドグラフィックスポート\(AGP\)](#) の仕様ではビデオ表示用のより高速な新機能が含まれています。AGP ビデオカードは最大 1066MB/s のビデオデータ転送速度を実現します。AK77-333 にはバスマスタ AGP グラフィックスカード用の AGP 拡張スロットが装備されています。AD および SBA 信号用には、AK77-333 は 133MHz 2X/4X モードがサポートされています。AK77-333 に搭載された 6 本の PCI スロットの中に、4 本はバスアービトレーション及びデコード機能を有するマスタ PCI スロットであり、残りの 1 本はスレーブ PCI スロットです。

メモリ

VIA Apollo KT333 チップセットにより、AK77-333 では、[ダブルデータレート\(DDR\) SDRAM](#) が使用可能です。DDR DRAM インタフェースにより、SDRAM とデータバッファ間での待ち時間なしの 266/333MHz バーストモードを実現します。6 つのメモリバンクには任意の個数及び組み合わせの 1M/2M4M/8M/16M/32M/64MxN DDR DRAM を最大 3GB まで搭載可能です。AK77-333 では、DDR SDRAM はホスト CPU バスクロック (266/333MHz) で同期および擬似同期モードで動作できます。

オンボードの AC97 サウンド

AK77-333 は [AC97](#) CODEC Realtek ALC650 チップを採用しています。オンボードオーディオには 5.1 チャンネル及びサウンド録音・再生システムが完備されています。

8 個の USB コネクタ (第 3 及び第 4 USB コネクタは USB2.0 対応、オプション)

マウス、キーボード、モデム、スキャナー等の USB インタフェースデバイス用に、4 個のポート及び 8 個の [USB](#) コネクタが用意されています。オンボードの第 1 及び第 2 USB ホストコントローラは USB UHCI 1.1 規格に完全に準拠しており、低消費電力モードやウェイクアップ仕様をフルサポートしています。そして、第 3 及び第 4 USB コネクタは USB2.0 機能をサポートし、転送速度は従来の 40 倍となり、最大 480Mbps の転送レートを実現します。

1MHz 単位でのクロック調節

“1MHz 単位でのクロック調節”機能が BIOS でサポートされています。このユニークな機能により CPU [FSB](#) クロックを 100~248 の範囲で 1MHz 単位で調節して、システムの性能を最大限引き出す事ができます。

ウォッチドッグタイマー

AOpen “ウォッチドッグタイマー”機能により、システムのオーバークロックに失敗しても 4.8 秒でシステム設定は自動リセットされます。

外部コントローラ付きダイハード BIOS

ダイハード BIOS テクノロジーはソフトウェアや BIOS コードを含まない、ハードウェア上の有効な保護装置で、ウィルス防止効果 100%です。



Dr. LED (アップグレードオプション)

Dr. LED とは、AK77-333 上の 8 個の LED で、遭遇した問題の性質を容易に把握できます。

パワーマネジメント及びプラグアンドプレイ

AK77 Plus / AK77 Pro のサポートするパワーマネジメント機能は、米国環境保護局 (EPA) の Energy Star 計画の省電力規格をクリアしています。さらに[プラグアンドプレイ](#)機能により、設定時のトラブルを減少させ、システムがよりユーザーフレンドリーになっています。

ハードウェアモニタ機能

CPU や筐体ファンの状態、CPU 温度や電圧の監視及び警告がオンボードのハードウェアモニタモジュールおよび[AOpen ハードウェアモニタユーティリティ](#)から使用可能です。

拡張 ACPI

Windows® 95/98/ME/NT/2000 シリーズ互換の[ACPI](#)規格に完全準拠し、ソフト・オフ、[STR \(サスペンドトゥー RAM, S3\)](#)、[STD \(ディスクサスペンド, S4\)](#)、WOM (ウェイクオンモデム)、WOL (ウェイクオン LAN)機能をサポートしています。

スーパーマルチ I/O

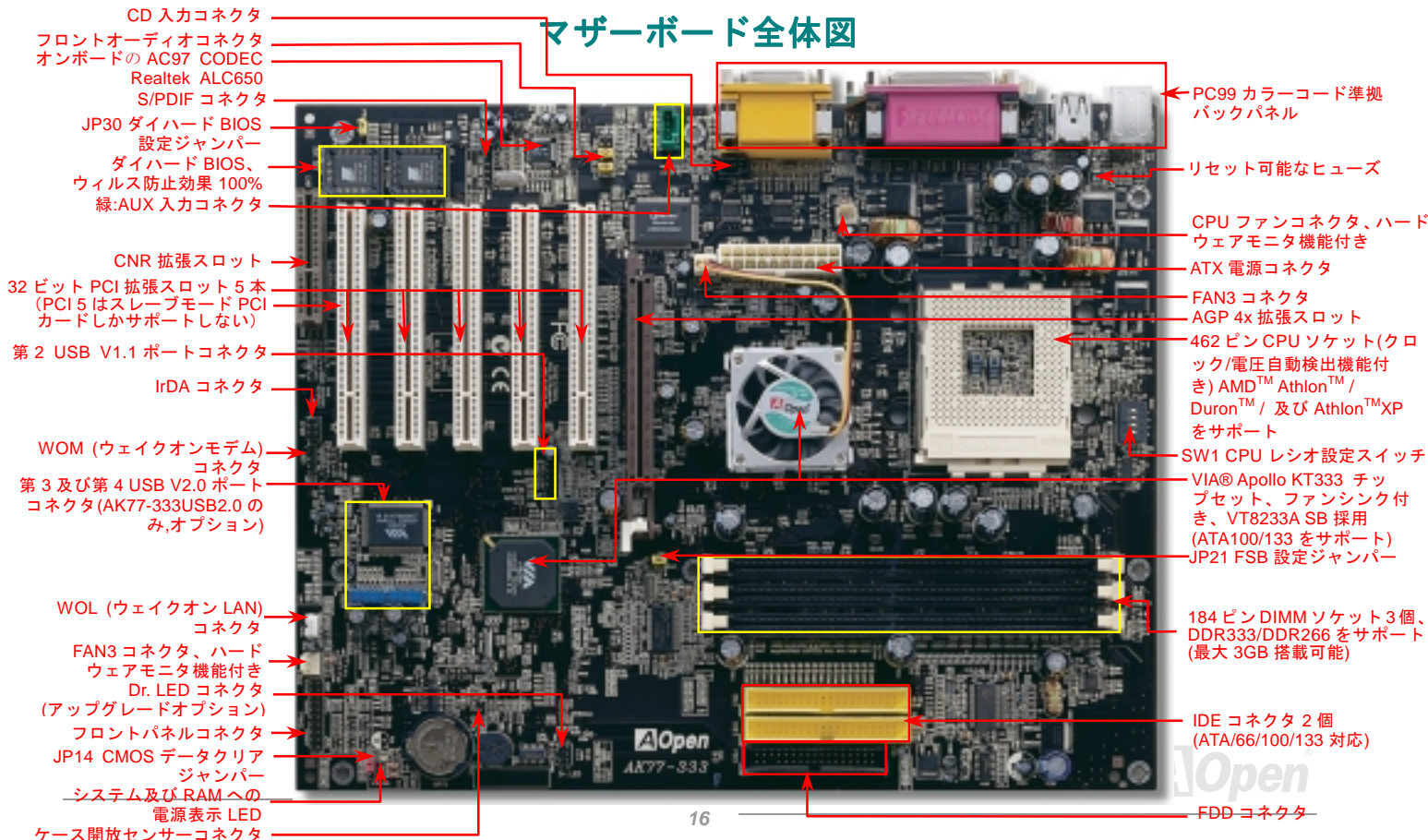
AK77-333 には、UART 互換高速シリアルポート 2 個、EPP および ECP 互換の平行ポート 1 個が装備されています。UART2 は COM2 から赤外線モジュールに接続してワイヤレス転送にも使用可能です。

クイックインストールの手順

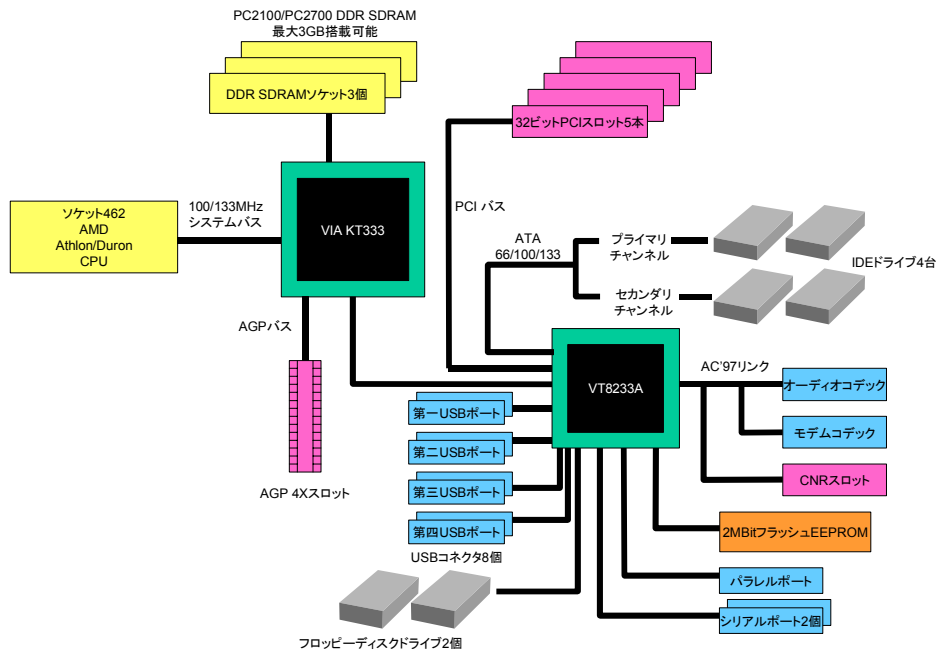
このページにはシステムをインストールする簡単な手順が説明されています。以下の手順に従ってください。

1. [CPUおよびファンのインストール](#)
2. [システムメモリ \(DIMM\)のインストール](#)
3. [フロントパネルケーブルの接続](#)
4. [IDE およびフロッピーケーブルの接続](#)
5. [ATX 電源ケーブルの接続](#)
6. [バックパネルケーブルの接続](#)
7. [電源の投入および BIOS 設定の初期値のロード](#)
8. [CPU クロックの設定](#)
9. 再起動
10. 基本ソフト (Windows 98 など) のインストール
11. [ドライバ及びユーティリティのインストール](#)

マザーボード全体図



ブロックダイアグラム



ハードウェアのインストール

この章ではマザーボードのジャンパー、コネクタ、ハードウェアデバイスについて説明されています。

注意: 静電放電 (ESD) の発生がプロセッサ、ハードディスク、拡張カード及び他の周辺デバイスに損害を与える可能性がありますので、各デバイスのインストール作業を行う前に、常に、下記の注意事項に気を付けるようにして下さい。

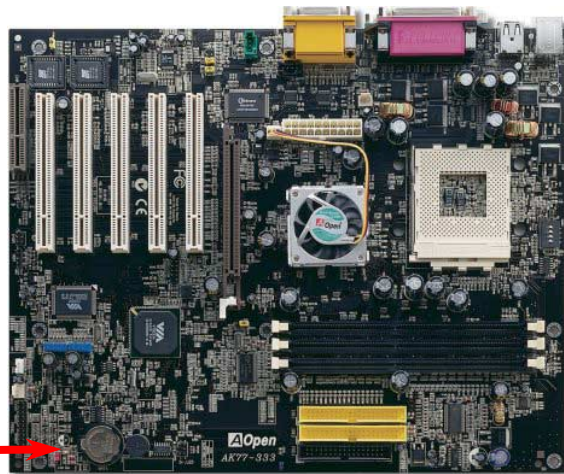
1. 各コンポーネントは、そのインストール直前まで静電保護用のパッケージから取り出さないで下さい。
2. コンポーネントを扱う際には、あらかじめアース用のリスト・ストラップを手首にはめて、コードの先はパソコンケースの金属部分に固定して下さい。リスト・ストラップがない場合は、静電放電を防ぐ必要のある作業中は常に、身体がパソコンケースに接触しているようにして下さい。

CMOS データのクリア

CMOS をクリアする事でシステムの初期値設定に戻ることができます。CMOS のクリア手順は下記の通りです。

1. システムの電源を切り、AC パワーコードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを取り外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. 1-2 番ピンをショートして JP14 を通常の設定に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差し戻します。

1 番ピン



正常動作の場合
(初期値設定)



CMOS クリア
の場合

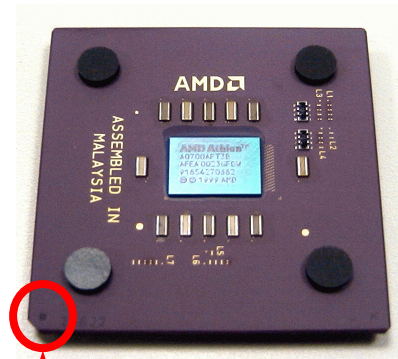
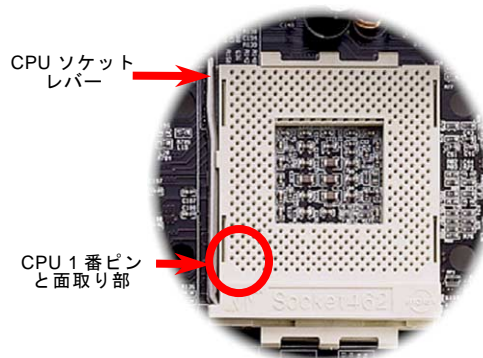
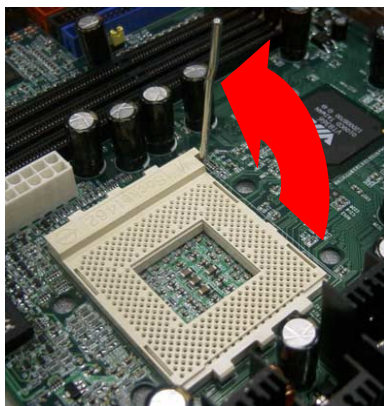
ヒント: CMOS クリアはどんな時に必要?

1. オーバークロック時の起動失敗...
2. パスワードを忘れた...
3. トラブルシューティング...

CPU のインストール

このマザーボードは AMD® Athlon および Duron の Socket 462 仕様 CPU をサポートしています。CPU をソケットに差すときは CPU の方向に注意してください。

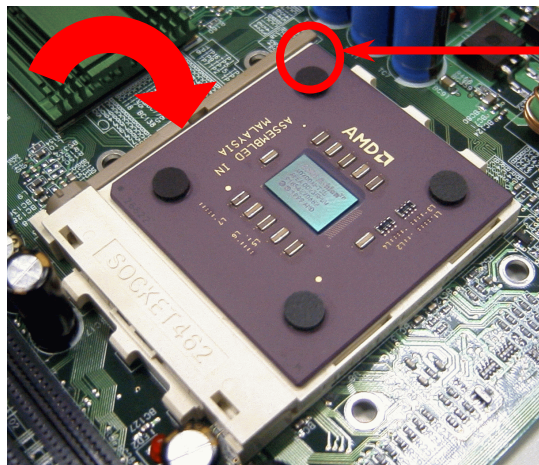
1. CPU ソケットレバーを 90 度引き起こします。
2. ソケットの 1 番ピンの位置および CPU 上部の面取り部を確認します。1 番ピンおよび面取り部を合わせます。この方向で CPU をソケットに差します。



黒い点及び
面取り部

注意：この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

3. CPUソケットレバーを水平に戻しますと、CPUのインストールは完了です。



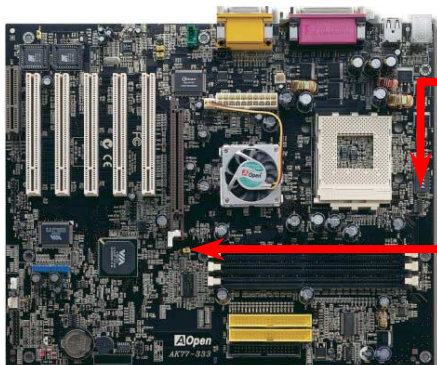
CPU 面取り部

注意: CPU ソケットの1番ピンとCPUの面取り部を合わせてインストールしないと、CPU に損傷を与える可能性があります。

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

JP21 による FSB/PCI クロックレシオ設定

このジャンパースイッチにより、PCI 及びFSBクロックの関係を設定します。一般的には、オーバークロックを行うのでない限り、初期値設定のままにしておくことをお勧めします。ところでこのマザーボードは“1MHz 単位調節”機能をオーバークロック用に装備しています。これで CPU FSB クロックを BIOS セットアッププログラムから調節できます。CPU タイプ別に二つの調節範囲があります: 100~129 (FSB=100, Athlon 800 等), 130~248 (FSB=133, Athlon 1000 等)が設定できます。また、BIOS セットアッププログラムのクロックテーブルにより、100~117 (例えば 105, 110, 115 等) 及び 120~156 から特定の FSB クロック範囲を選択することができます。CPU FSB クロックを JP21 で設定すると、“1MHz 単位調節”範囲はその設定に従って変化します。



SW1 CPU レシオ
設定スイッチ



1 2 3

FSB=100

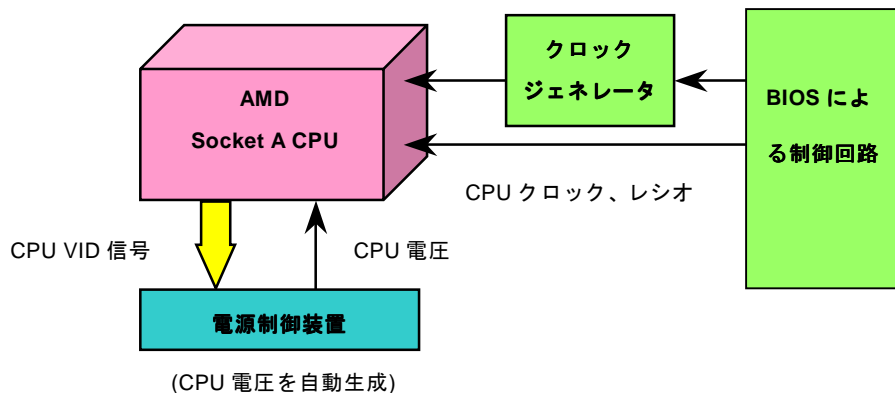


FSB=133
(初期値)

CPU Ratio	SW1-1	SW1-2	SW1-3	SW1-4
5	-	-	+	-
5.5	+	-	+	-
6	-	+	+	-
6.5	+	+	+	-
7	-	-	-	+
7.5	+	-	-	+
8	-	+	-	+
8.5	+	+	-	+
9	-	-	+	+
9.5	+	-	+	+
10	-	+	+	+
10.5	+	+	+	+
11	-	-	-	-
11.5	+	-	-	-
12	-	+	-	-
12.5	+	+	-	-
CPU Default	0	0	0	0

CPU ジャンパーレス設計


CPU VID 信号および [SMBus](#) クロックジェネレーターにより、CPU 電圧の自動検出が可能となり、ユーザーは [BIOS セットアップ](#) を通して CPU クロックを設定できますから、ジャンパーやスイッチ類は不要となります。これで Pentium 中心のジャンパーレス設計に伴う不便は解消されます。CPU 電圧検出エラーの心配もありません。



CPU コア電圧フルレンジ調整機能

この機能はオーバークロック用です。AOpen は Fairchild 社と共同で、CPU コア電圧を 1.1V から 1.85V まで 0.05V 刻みで調節可能な特殊チップ、FM3540 を開発しました。実際は、このマザーボードでは CPU VID 信号を自動検出し、適正な CPU コア電圧を生成します。

BIOS セットアップ > クロック/電圧コントロール > CPU 電圧設定



警告: CPU コア電圧を高めると、オーバークロック時の CPU 処理速度は向上しますが、CPU に損傷を与えたり、CPU の寿命を縮めたりする可能性があります。

CPU クロックの設定

このマザーボードは CPU ジャンパーレス設計ですので、CPU クロックは BIOS セットアップから設定でき、ジャンパースイッチ類は不要です。

BIOS セットアップ > クロック/電圧コントロール > CPU スピード設定

CPUレシオ	5.5x から 12.5x まで 0.5x 単位で
CPU FSB (BIOS一覧表より)	100, 102, 105, 108, 110, 113, 115, 117, 120, 122, 124, 133, 136, 138, 140, 142, 144, 147, 152, 154, 及び 156MHz.
CPU FSB (手動による調整)	FSB=100, 100~129の範囲で1MHz単位で調整可能 FSB=133, 130~248の範囲で 1MHz 単位で調整可能

警告: VIA® Apollo KT333 チップセットは 133MHz FSB (最大 266MHz EV6 システムバスが実現できる)および 66MHz AGP クロックをサポートしています。より高速のクロック設定はシステムに重大な損傷を与える可能性があります。

ヒント:オーバークロックにより、システム起動に失敗してフリーズした場合は、<Home>キーを押すだけでデフォルト設定に戻りますし、5秒待ってAOpen “ウォッチドッグタイマー”がシステムをリセットしハードウェアが再度自動検出されるようにもできます。



調整可能な CPU クロック

コアクロック = CPU [バス](#)クロック * CPU レシオ

PCI クロック = CPU バスクロック/クロックレシオ

[AGP](#)クロック = PCI クロック x 2

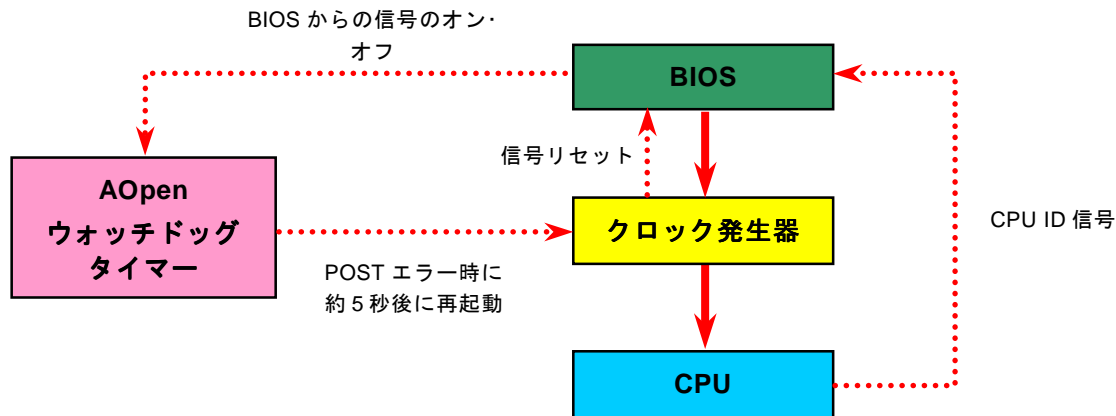
EV6 バススピード = CPU 外部バスクロック x 2

CPU	CPUコアクロック	EV6バスクロック	レシオ
Athlon 1G	1GHz	200MHz	10.0x
Athlon 1.1G	1.1GHz	200MHz	11.0x
Athlon 1.2G	1.2GHz	200MHz	12.0x
Athlon 1.3G	1.3GHz	200MHz	13.0x
Athlon 1G	1GHz	266MHz	7.5x
Athlon 1.13G	1.13GHz	266MHz	8.5x
Athlon 1.2G	1.2GHz	266MHz	9.0x
Athlon 1.33G	1.33GHz	266MHz	10.0x
Athlon 1.4G	1.4GHz	266MHz	10.5x
AthlonXP 1500+	1.3GHz	266MHz	10.0x
AthlonXP 1600+	1.4GHz	266MHz	10.5x
AthlonXP 1700+	1.46GHz	266MHz	11.0x
AthlonXP 1800+	1.53GHz	266MHz	11.5x
AthlonXP 1900+	1.6GHz	266MHz	12.0x
Duron 800	800MHz	200MHz	8.0x
Duron 850	850MHz	200MHz	8.5x
Duron 900	900MHz	200MHz	9.0x
Duron 950	950MHz	200MHz	9.5x
Duron 1G	1GHz	200MHz	10.0x
Duron 1.1G	1.1GHz	200MHz	11.0x

注意:このマザーボードにはCPU自動検出機能が備わっていますので、CPUクロックのマニュアル設定は不要です。

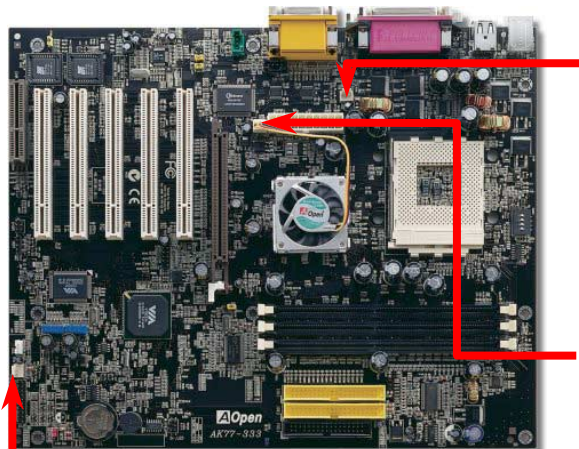
AOpen “ウォッチドッグタイマー”

このマザーボードには、オーバークロック用に AOpen によるユニークで便利な機能が備わっています。システム電源を入れると、BIOS は先回のシステムの [POST](#) 状況をチェックします。問題なければ、BIOS は即座に“ウォッチドッグタイマー”機能を起動し、CPU [FSB](#) クロックを BIOS に保存されているユーザー設定値に設定します。システムが BIOS POST の段階で起動失敗した場合は、“ウォッチドッグタイマー”はシステムをリセットし、5 秒後に再起動します。この時 BIOS は CPU のデフォルトクロックを検出し、再度 POST を行います。この特別な機能により、システムハングアップ時でもケースカバーを開けて CMOS クリアのジャンパー操作を行わずに、より高性能なシステムへのオーバークロックが可能となっています。

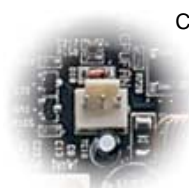
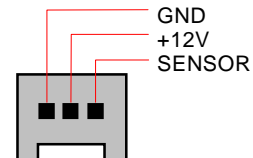


CPU 及びケースファンコネクタ(ハードウェアモニタ機能付き)

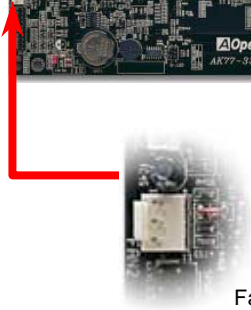
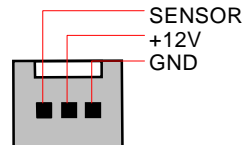
CPU ファンのケーブルは 3-ピンの CPUFAN コネクタに差し込みます。筐体ファンを使用される場合は、ケーブルを System Fan (FAN2)または AUX Fan (FAN3)コネクタ (ハードウェアモニタ機能なし) に差し込むことも可能です。



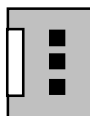
Fan3 コネクタ



CPU ファンコネクタ



Fan2 コネクタ

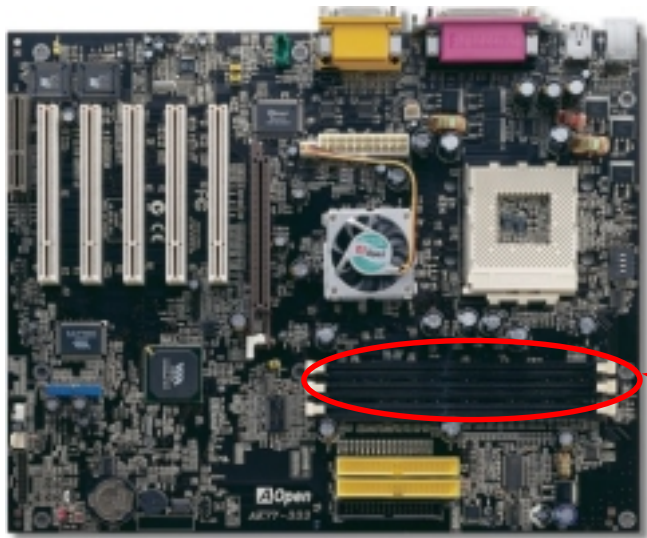


GND
+12V
SENSOR

注意: CPU ファンによってはセンサ用ピンがないものもあります。この場合、ファンのモニタ機能は使用できません。

DIMM ソケット

当マザーボードには184ピンDIMMソケットが3本装備されていますので、[DDR333](#)または[DDR266](#)メモリが最大3GBまで搭載可能です。



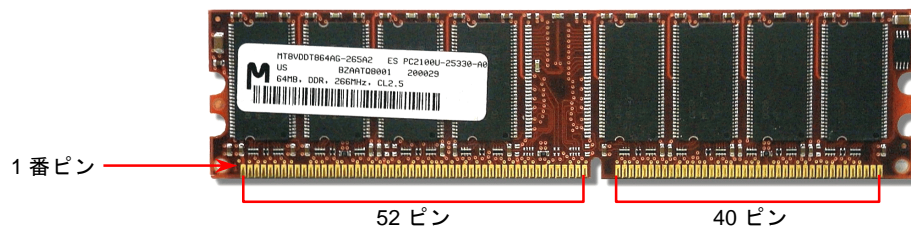
警告: AK77-333 は DDR SDRAM をサポートしていますが、SDRAM モジュールを DDR SDRAM ソケットに装着するなどの不適合な搭載は、メモリソケットや SDRAM モジュールの故障の原因となりますのでお避けください。



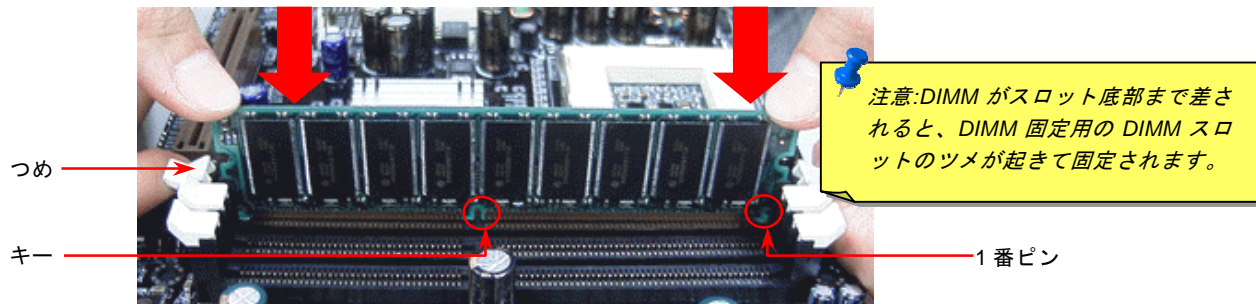
メモリモジュールのインストール方法

メモリのインストールには下記のステップに従います。

1. DIMM モジュールのピン側を下にし、下図のようにソケットを合わせます。



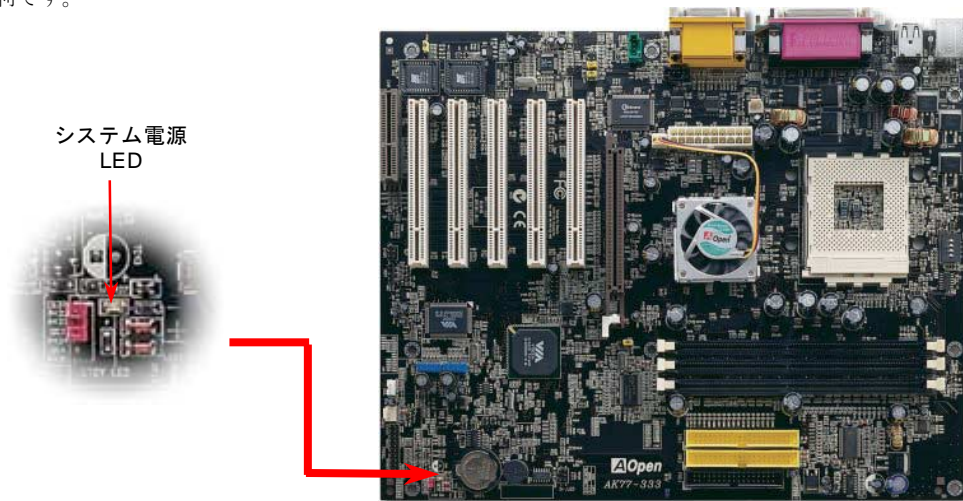
2. DIMM ソケットにモジュールを両手でまっすぐ下方に DIMM モジュールが止まるまでしっかり差し込みます。



3. 他の DIMM モジュールも同様にステップ 2 の方法を繰り返してインストールします。

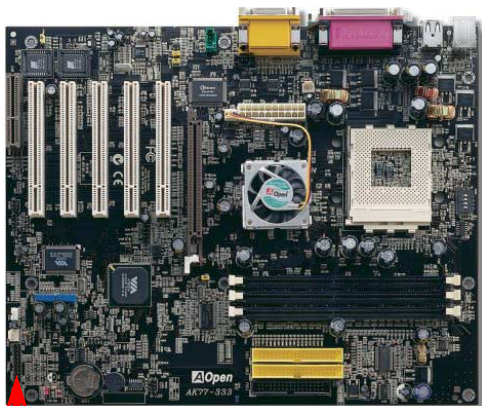
システム及びRAM への電源表示 LED

この LED により、マザーボードおよびメモリに電源が供給されている事が表示されます。マザーボードに電源が投入されると、この LED は点滅します。これは電源投入時のシステム電源状況、またはスタンバイ及び[サスペンドトゥーRAM モード](#)時の RAM 電源状態を確認するのに便利です。



警告:この LED が点灯しているときはメモリモジュールや他のデバイスを本体からはずしたりインストールしたりしないでください。

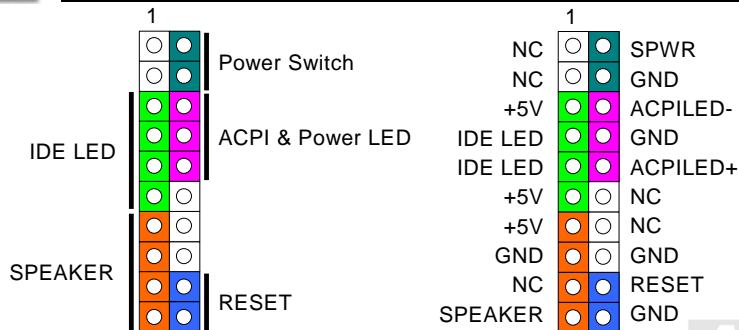
フロントパネルコネクタ



電源 LED、EMPI、スピーカー、電源、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに差しします。BIOS セットアップで“Suspend Mode” の項目をオンにした場合は、ACPI および電源の LED がサスペンドモード中に点滅します。

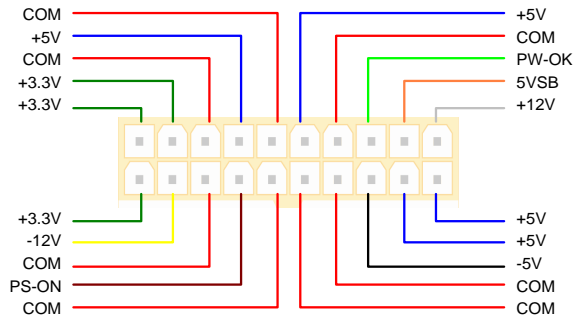
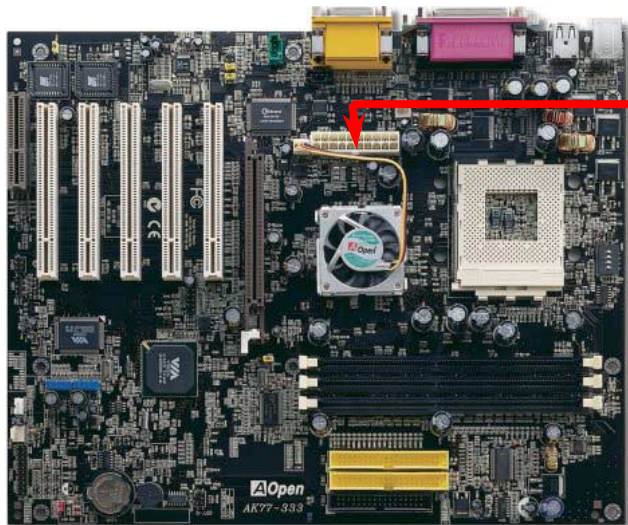
お持ちの ATX の筐体で電源スイッチのケーブルを確認します。これは前部パネルから出ている 2-ピンメスコネクタです。このコネクタを **SPWR** と記号の付いたソフトウェア電源スイッチコネクタに接続します。

サスペンドモード	ACPI LED
パワーオンサスペンド (S1)	毎秒点滅
サスペンドトゥーRAM (S3)またはハードディスクサスペンド (S4)	LED は消灯



ATX 電源コネクタ

ATX パワーサプライには下図のように 20 ピンのコネクタが使用されています。差し込む際は向きにご注意ください。



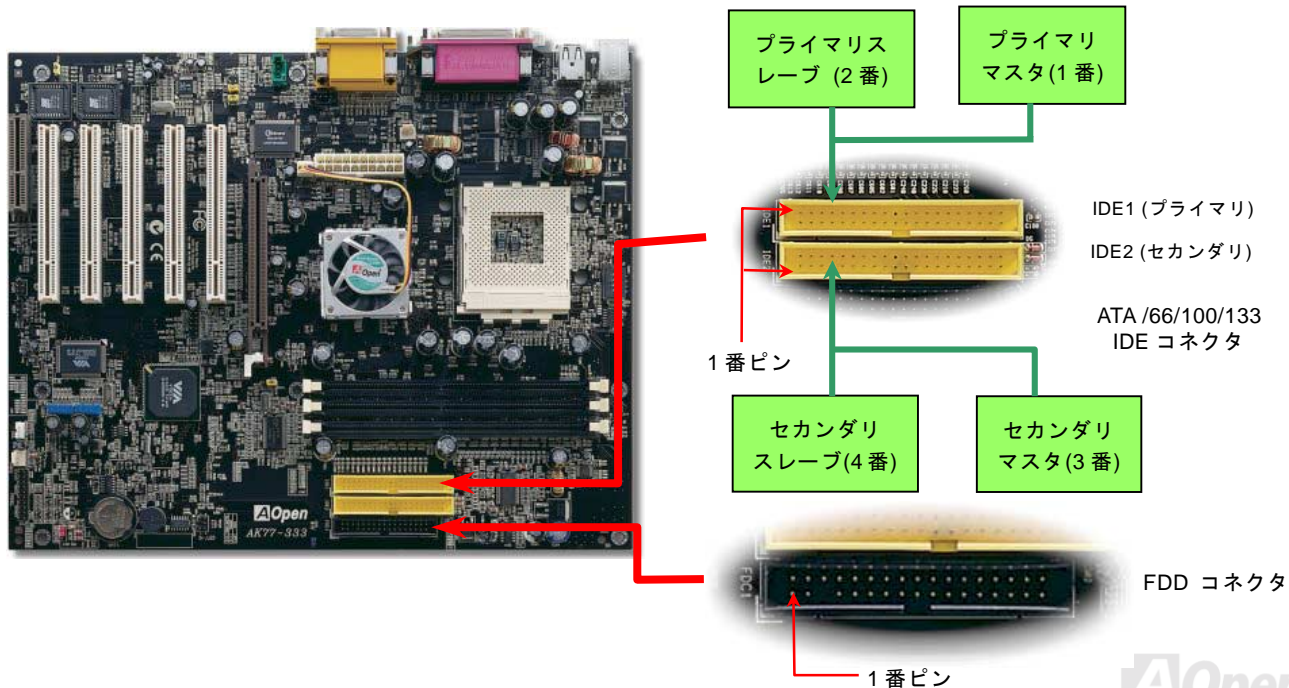
AC 電源自動回復機能

従来の ATX システムでは AC 電源が切断された場合、電源オフ状態からの再開となります。この設計は、無停電電源を使用しない場合に、常に電源オン状態を維持することが要求されるネットワークサーバーやワークステーションにとっては不都合です。この問題を解決するため、当マザーボードには電源自動回復機能が装備されています。



IDE 及びフロッピーコネクタの接続

34 ピンフロッピーケーブルと 40 ピン IDE ケーブルをそれぞれフロッピーコネクタ FDC および IDE コネクタに接続します。1 番ピンの向きにご注意ください。間違えますとシステムに支障を来す恐れがあります。



IDE1はプライマリチャンネル、IDE2はセカンダリチャンネルとも呼ばれます。各チャンネルは2個のIDEデバイスが接続できますので、合計4個のデバイスが使用可能です。これらを協調させるには、各チャンネル上の2個のデバイスをマスタおよびスレーブモードに指定する必要があります。ハードディスクまたはCDROMのいずれでも接続可能です。モードがマスタかスレーブかはIDEデバイスのジャンパー設定に依存しますので、接続するハードディスクまたはCDROMのマニュアルをご覧ください。

当マザーボードはATA66、ATA100およびATA133のIDEデバイスをサポートしています。下表にはIDE PIO 転送速度およびDMAモードが列記されています。IDEバスは16ビットで、各転送が2バイト単位で行われることを意味します。

モード	クロック周期	クロック カウント	サイクル時間	データ転送速度
PIO mode 0	30ns	20	600ns	$(1/600\text{ns}) \times 2\text{byte} = 3.3\text{MB/s}$
PIO mode 1	30ns	13	383ns	$(1/383\text{ns}) \times 2\text{byte} = 5.2\text{MB/s}$
PIO mode 2	30ns	8	240ns	$(1/240\text{ns}) \times 2\text{byte} = 8.3\text{MB/s}$
PIO mode 3	30ns	6	180ns	$(1/180\text{ns}) \times 2\text{byte} = 11.1\text{MB/s}$
PIO mode 4	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} = 16.6\text{MB/s}$
DMA mode 0	30ns	16	480ns	$(1/480\text{ns}) \times 2\text{byte} = 4.16\text{MB/s}$
DMA mode 1	30ns	5	150ns	$(1/150\text{ns}) \times 2\text{byte} = 13.3\text{MB/s}$
DMA mode 2	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} = 16.6\text{MB/s}$
ATA 33	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 33\text{MB/s}$
ATA 66	30ns	2	60ns	$(1/60\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 66\text{MB/s}$
ATA100	20ns	2	40ns	$(1/40\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 100\text{MB/s}$
ATA133	15ns	2	30ns	$(1/30\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 133\text{MB/s}$

ヒント:

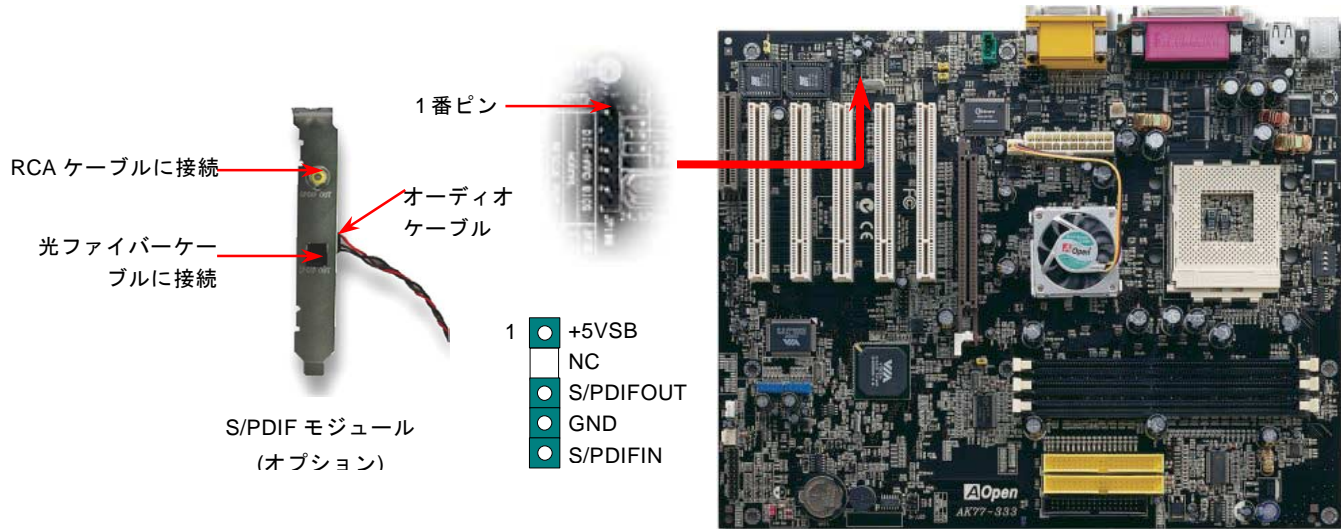
1. 信号の品質確保のため、一番離れた側の端子をマスタとし、提案された順序にしたがって新たにデバイスをインストールしてください。上図をご参考になってください。
2. Ultra DMA 66/100 ハードディスクの機能を最大限引き出すには、Ultra DMA 66/100 専用 80 芯線 IDE ケーブルが必要です。

警告: IDE ケーブルの規格は最大 46cm (18 インチ) です。ご使用のケーブルの長さがこれを超えないようご注意ください。



S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)コネクタ

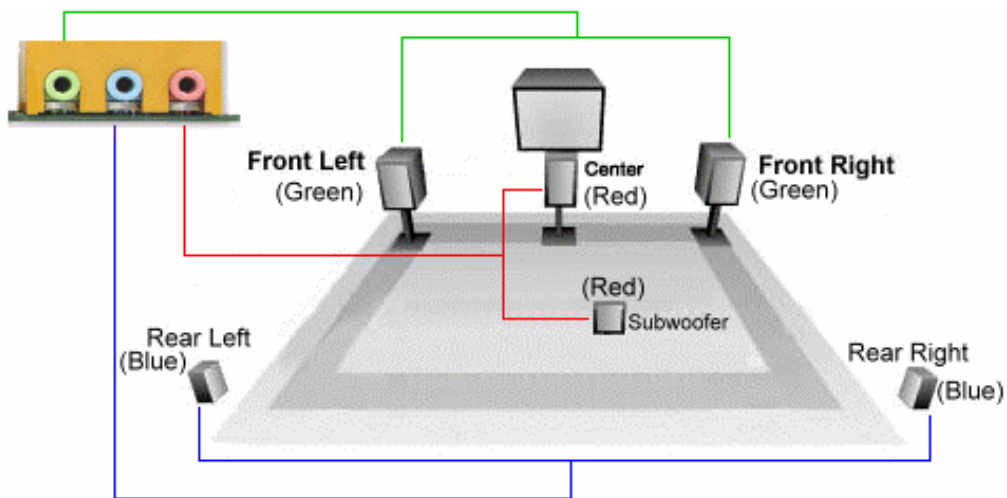
S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)は最新のオーディオ転送ファイル形式で、アナログに取って代わるデジタルオーディオを光ファイバー経由で楽しめます。図示されているように S/PDIF 出力は 2 つあり、一方は大部分の消費型オーディオ製品に対応する RCA コネクタ、他方はより高品質のオーディオに対応する光コネクタです。専用オーディオケーブルにより、S/PDIF コネクタと別の S/PDIF デジタル出力をサポートする S/PDIF オーディオモジュールを接続します。ただし、S/PDIF デジタル出力の長所を最大限活かすにはモジュールの S/PDIF 出力を S/PDIF デジタル入力対応スピーカーに接続する必要があります。



高音質の 5.1 チャンネルオーディオ効果



当マザーボードには高音質の 5.1 チャンネル対応の ALC650 Codec が搭載され、新鮮な音声が楽しめます。ALC650 の革新的なデザインにより、外部モジュールを接続せずに、標準的なラインジャックでサラウンドオーディオを出力することができます。この機能を使用するには、**Bonus Pack CD** からオーディオドライバ及び 5.1 チャンネル対応のオーディオアプリケーションをインストールする必要があります。下図は 5.1 チャンネルサウンドトラックにある全てのスピーカーの標準位置を示しています。フロントスピーカーのプラグを緑の“スピーカー出力”ポートに接続し、リアスピーカーのプラグを青の“ライン入力”ポートに接続し、そしてセンター及びサブウーファースピーカーを赤の“マイク入力”ポートに接続してください。



IrDA コネクタ







IrDA コネクタはワイヤレス赤外線モジュールの設定後、Laplink や Windows95 Direct Cable Connection 等のアプリケーションソフトウェアと併用することで、ユーザーのラップトップ、ノートブック、PDA デバイス、プリンタ間でのデータ通信をサポートします。このコネクタは HPSIR (115.2Kbps, 2m 以内)および ASK-IR (56Kbps)をサポートします。

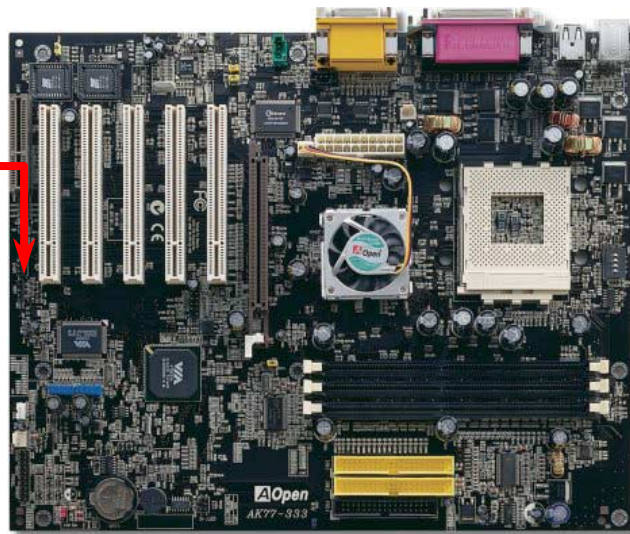
IrDA コネクタに赤外線モジュールを差し込んで、BIOS セットアップの [UART2 モード](#) で正しく設定します。IrDA コネクタを差す際は方向にご注意ください。

1 番ピン



IrDA コネクタ

NC			KEY
+5V			GND
IR_TX			IR_RX



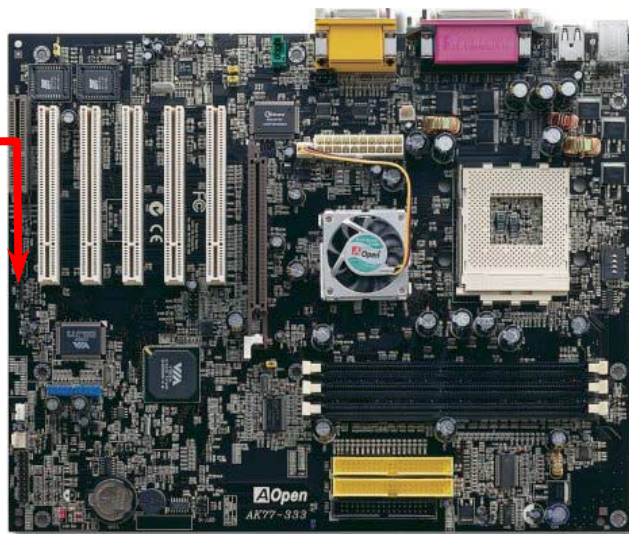
WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム) コネクタ

このマザーボードには内蔵モデムカードおよび外付けモデムの双方をサポートするウェイクオンモデム機能が備わっています。内蔵モデムカードはシステム電源オフの際、電力消費はゼロなので内蔵モデムの使用をお勧めします。内蔵モデムを使用するには、モデムカードの RING コネクタからの 4 ピンケーブルをマザーボードの WOM コネクタに接続します。



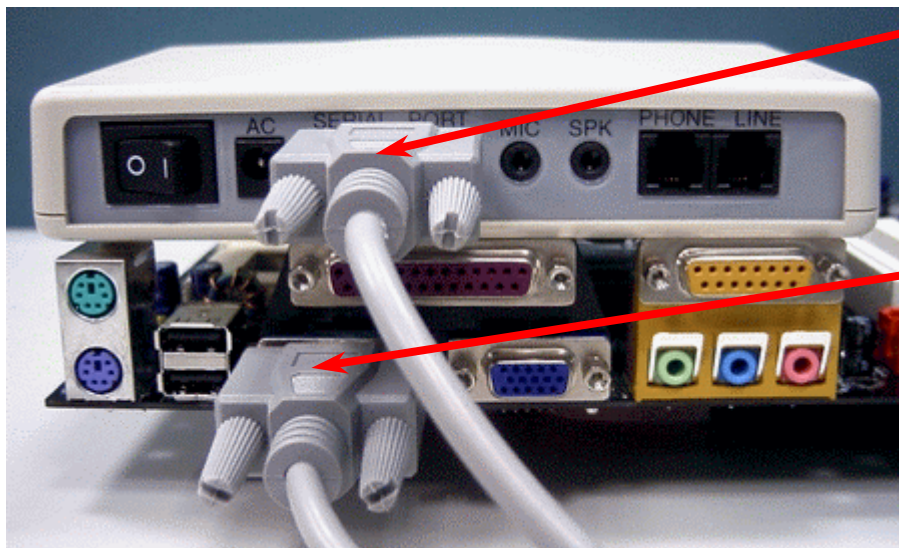
WOM コネクタ

+5VSB	●
NC	□
RI-	●
GND	●



外付けモデムによる WOM 機能

従来のグリーン PC のサスペンドモードはシステム電源供給を完全にはオフにはせず、外付けモデムでマザーボードの COM ポートを活性化し、動作に復帰します。



シリアルポート
(モデム側)

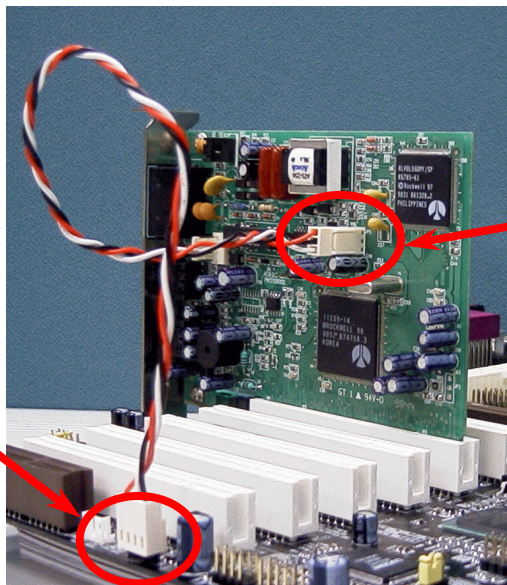
シリアルポート
(マザーボード側)

注意：この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

内蔵モデムカードによる WOM 機能

ATX のソフトパワーオン・オフ機能により、システムを完全にオフにしても着信時に自動的にウェイクアップして、留守電またはファックスの送受信を行うことが可能です。システム電源が完全にオフであるかどうかはパワーサプライのファンがオフかどうかで判断できます。外付けモデムと内蔵モデムカードの双方がモデムウェイクアップ機能をサポートできますが、外付けモデムを使用する際は、モデム電源をオンにしておく必要があります。

WOM コネクタ
(マザーボード側)

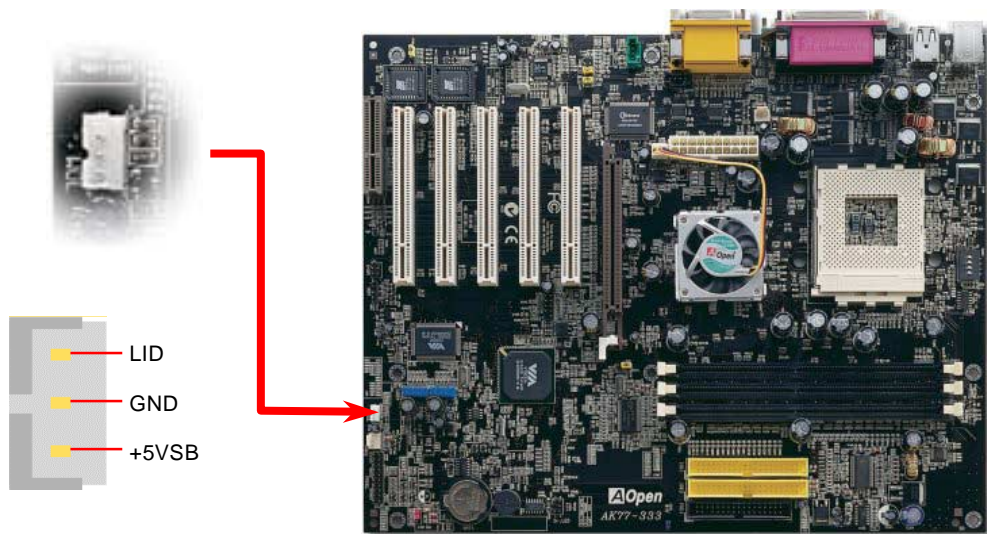


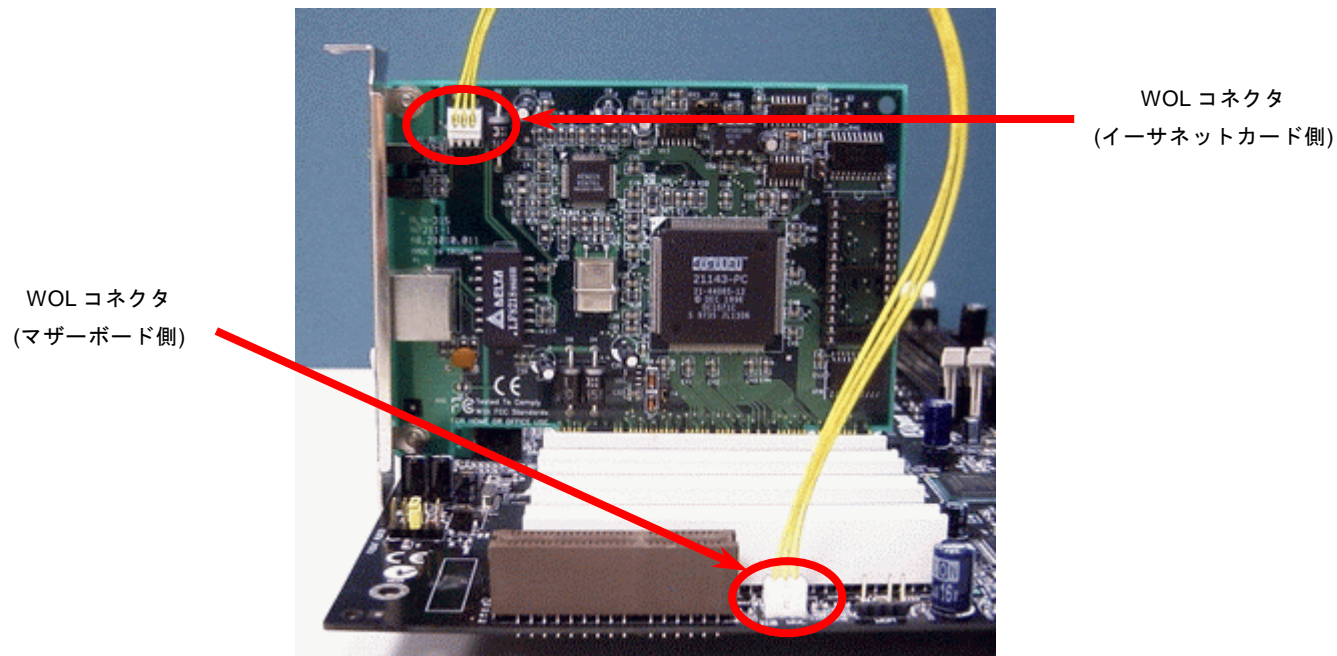
WOM コネクタ
(モデムカード側)

注意：この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

WOL (ウェイクオンLAN) 機能

この機能はウェイクオンモデムと酷似していますが、これはローカルエリアネットワークを対象としています。LAN ウェイクアップ機能を使用するには、この機能をサポートするチップセット搭載のネットワークカードが必要である上に、ケーブルで LAN カードをマザーボードの WOL コネクタに接続してください。システム判別情報(おそらく IP アドレス)はネットワークカードに保存され、イーサネットには多くのトラフィックが存在するため、システムをウェイクアップさせる方法は ADM 等のネットワークソフトウェアを使用することが必要となります。この機能を使用するには、LAN カードへの ATX からのスタンバイ電流が最低 600mA 必要であることにご注意ください。

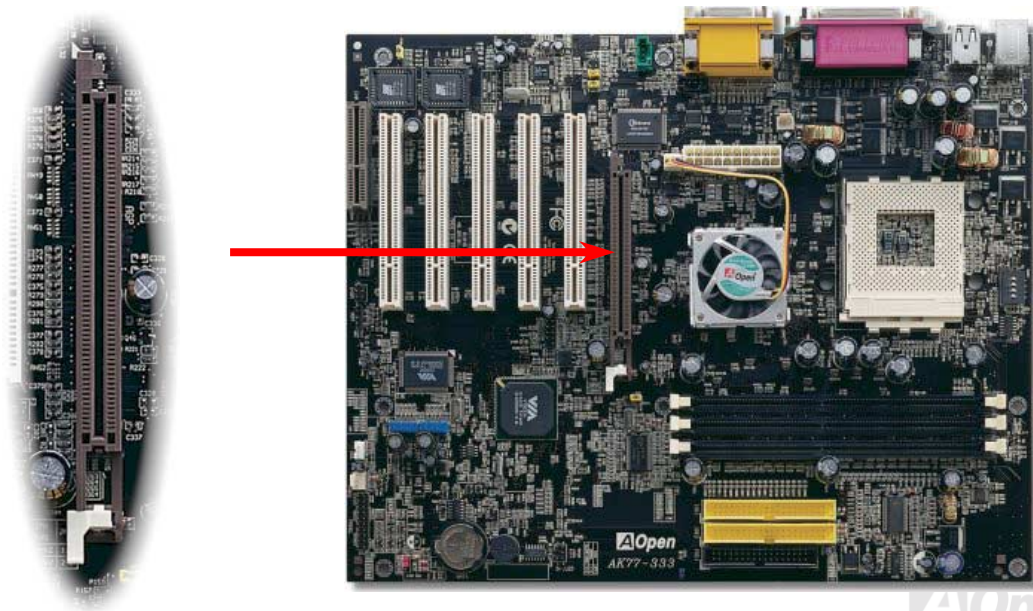




注意：この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

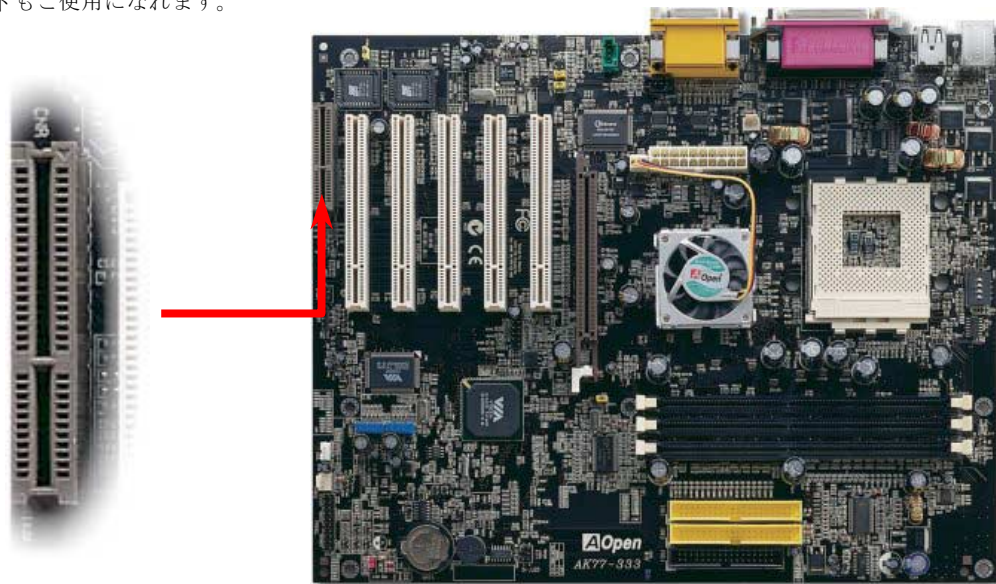
AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)拡張スロット

AK77-333 マザーボードはAGP 2x4x スロットを装備しています。AGP 2x4x は高性能 3D グラフィックス用に設計されたバスインタフェースです。AGP はメモリへの読み書きのみをサポートし、1組のマスタ/スレーブのみを対象にします。AGP は 66MHz クロックの立ち上がりと下降部の双方を利用し、データ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 2 = 528\text{MB/s}$ です。AGP はさらに AGP 4x モードへ移行中で、転送速度は $66\text{MHz} \times 4\text{bytes} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ です。この AGP 拡張スロットは 1.5V AGP カードのみをサポートしています。



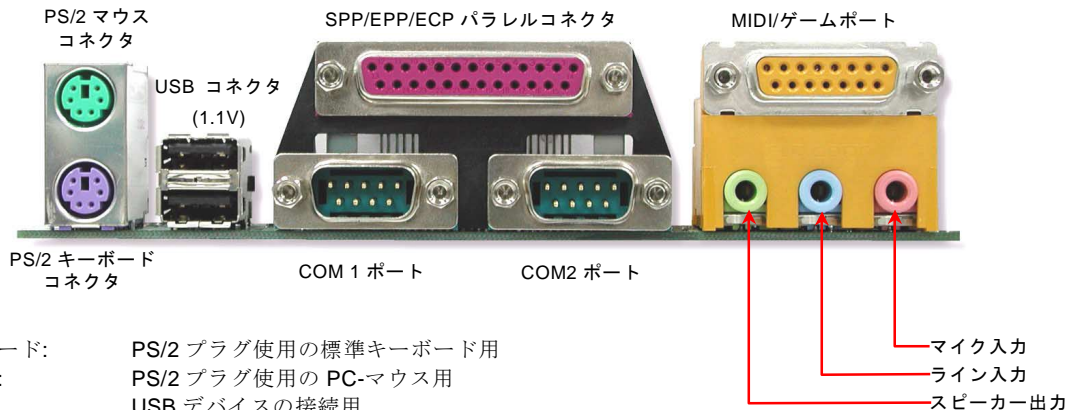
CNR(コミュニケーション及びネットワーキングライザー)拡張スロット

CNR は AMR (オーディオ/モデムライザー) に取って代わって V.90 アナログモデム、多チャンネルオーディオ、イーサネット LAN による各種のネットワーク機能、DSL、USB、無線、あるいは電話線によるホームネットワーク環境をサポートするライザー仕様です。CPU の計算能力の向上に伴い、デジタル処理操作をメインチップセットに組み込んで CPU パワーの一部が利用できるようになりました。しかし、コード変換 (**CODEC**)回路は別の独立した回路設計が必要ですので、コストのより低い、しかも弾力性に富む **CNR** カード上に組み込まれます。このマザーボードにはオンボードでサウンド **CODEC** が装備されて(BIOS よりオフできる)いますが、モデム機能のオプションとして予備の **CNR** スロットも用意されています。もちろん、引き続き PCI モデムカード/LAN カードもご使用になれます。



PC99 カラーコード準拠バックパネル

オンボードの I/O デバイスは PS/2 キーボード、PS/2 マウス、シリアルポート、COM1、COM2、プリンタ、[8個のUSB](#)、AC97 サウンドコーデック、ゲームポートです。下図は筐体のバックパネルから見た状態です。

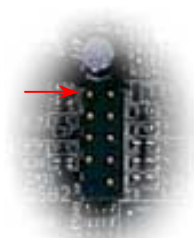


PS/2 キーボード:	PS/2 プラグ使用の標準キーボード用
PS/2 マウス:	PS/2 プラグ使用の PC-マウス用
USB ポート:	USB デバイスの接続用
パラレルポート:	SPP/ECP/EPP プリンタの接続用。
COM1 ポート:	ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアルデバイスの接続用
スピーカー出力:	外部スピーカー、イヤホン、アンプへの出力接続用
ライン入力:	CD/テーププレーヤー等からの信号源からの入力接続用
マイク入力:	マイクロホンからの入力接続用
MIDI/ゲームポート:	15 ピン PC ジョイスティック、ゲームパッドまたは MIDI デバイスへの接続用

第2 USBポートをサポート

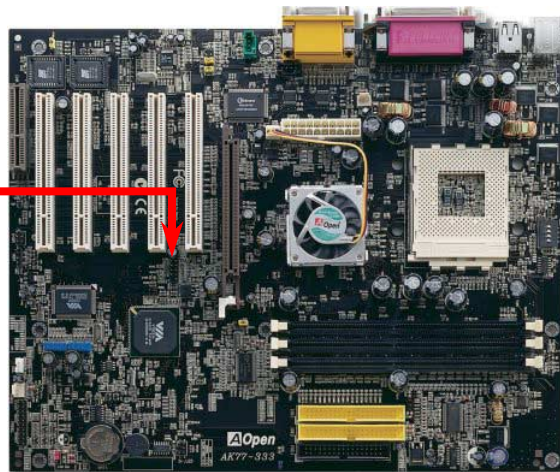
当マザーボードには 8 個の **USB** コネクタがあり、マウス、キーボード、モデム、プリンタ等の **USB** 機器が接続できます。2 個のコネクタは、**PC99** バックパネルにあります。適当なケーブルにより、他の **USB** コネクタを **USB** モジュールやケースのフロントパネルに接続することができます。また、**USB3** 及び **USB4** コネクタ両方とも **USB 2.0** 機能をサポートし、後ほど次のセクションでご紹介します。

1 番ピン



USB2 コネクタ

	1	2	
USBPWR0	●	●	USBPWR0
USB_FP_P0-	●	●	USB_FP_P1-
USB_FP_P0+	●	●	USB_FP_P1+
GND	●	●	GND
KEY	□	●	USB_FP_OC0
	9	10	



警告 : DOS 環境においてキーボードやマウス等の **USB** デバイスをご使用されたい場合に、動作させるためにデバイスの付属ドライバをインストールする必要があります。



第3及び第4 USB2.0ポートをサポート (AK77-333(USB2.0)のみ・オプション)

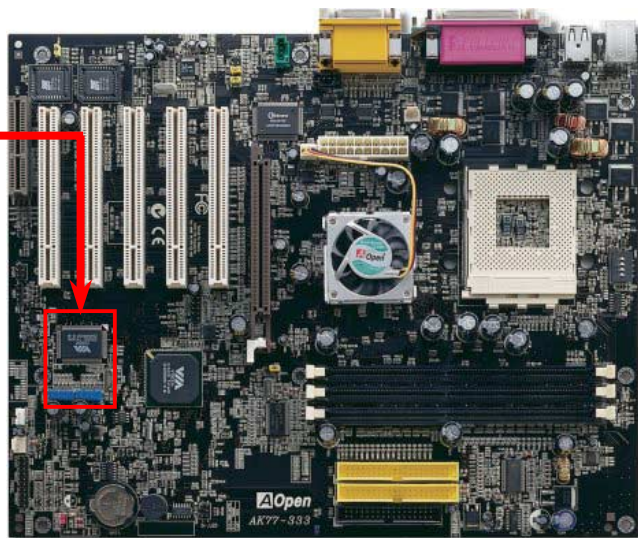
従来の USB 1.0/1.1 規格では最大 12Mbps の転送となりますが、USB 2.0 規格の転送速度はその 40 倍であり、最高 480Mbps を実現します。転送レートを向上させるほか、USB 2.0 は USB 1.0/1.1 規格のソフトウェア及び周辺機器をサポートし、ユーザーにより高い互換性を提供しています。当マザーボードには、USB 2.0 規格対応の USB3 及び USB4 コネクタが搭載されています。適切な USB ケーブルにより、これらのコネクタを USB モジュールに接続することができます。



1 番ピン

USB3 及び USB4 コネクタ

	1	2	
USBPWR0	●	●	USBPWR0
USB_FP_P0-	●	●	USB_FP_P1-
USB_FP_P0+	●	●	USB_FP_P1+
GND	●	●	GND
KEY	□	●	USB_FP_OC0
	9	10	



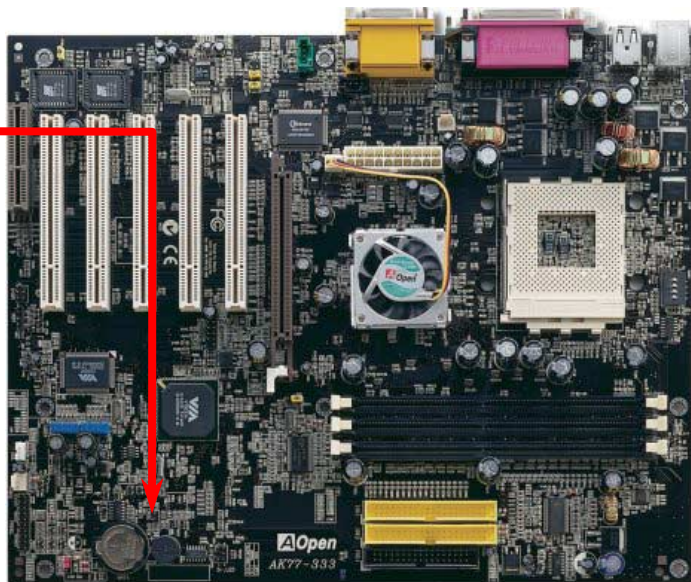
ケース開放センサーコネクタ

この“CASE OPEN”コネクタはケース開放監視機能を提供します。この機能を使用するには、システム BIOS からこの機能を有効に設定し、そしてこのコネクタをケースのセンサーに接続してください。光やケースの開放によってセンサーが起動されたら、システムはビービーの警告音声で知らせてくれます。この有用な機能はハイエンドのケースにしか使えないことにご注意ください。センサーを購入し、ご使用のケースに取り付けてこの機能を有効に利用することもできます。

1 番ピン

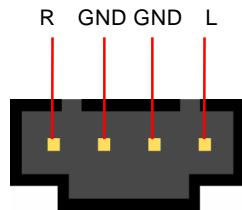
ケース開放監視センサー
コネクタ

1  SENSOR
 GND

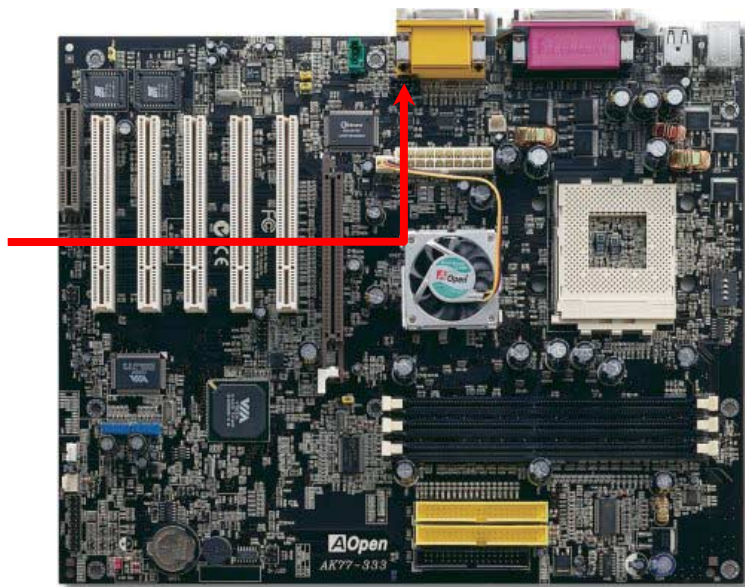


CD オーディオコネクタ

このコネクタはCDROMまたはDVDドライブからのCDオーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。

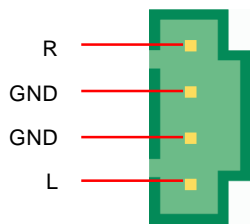


CD 入力コネクタ

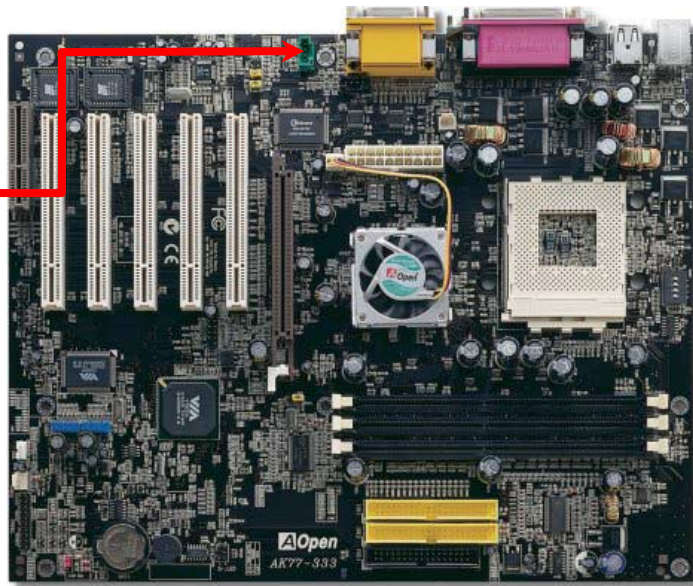


AUX 入力コネクタ

このコネクタは MPEG カードからの MPEG オーディオケーブルをオンボードサウンドへ接続するのに使用します。



AUX 入力コネクタ



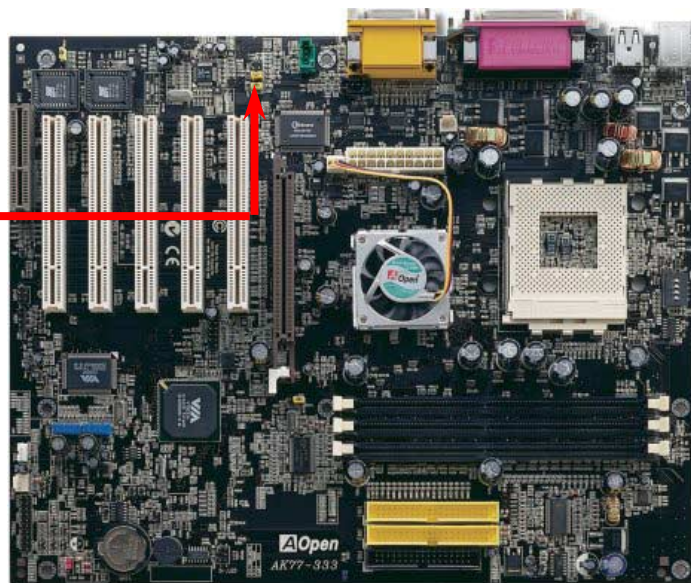
フロントオーディオコネクタ

ケースのフロントパネルにオーディオポートが設定されている場合、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。なお、ケーブルを接続する前にフロントパネルオーディオコネクタから5、6、9、10番のジャンパーキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合は5、6、9、10番の黄色いキャップを外さないでください。

1 番ピン

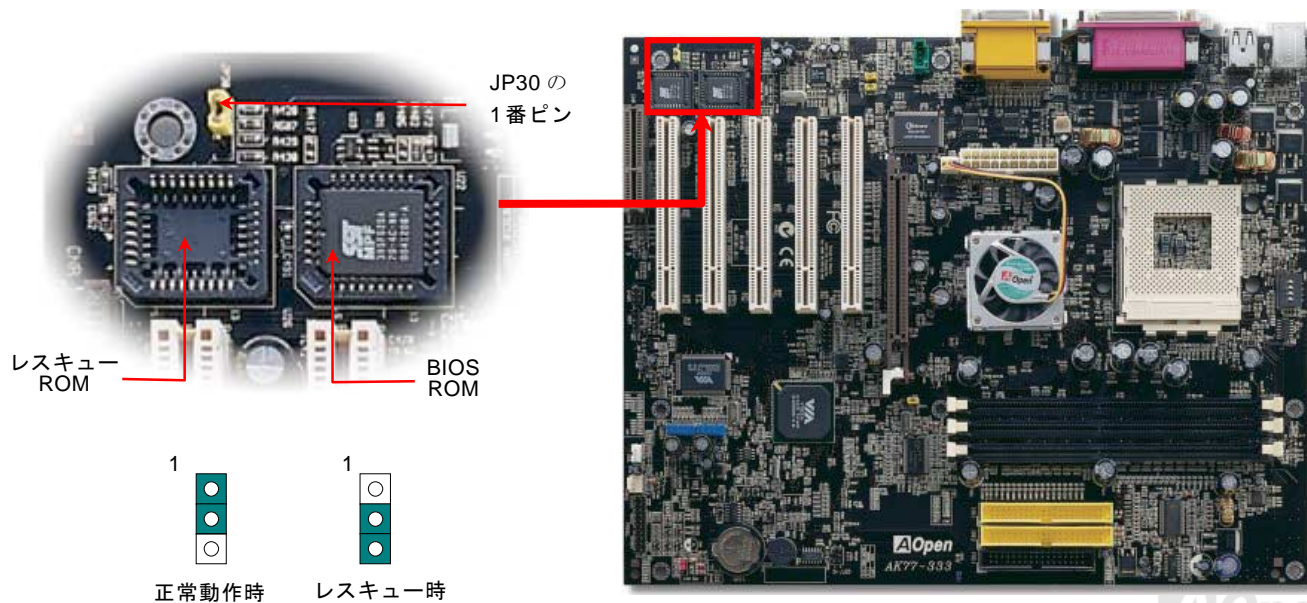


	1	2		
AUD_MIC	●	●	AUD_GND	
AUD_MIC_BIAS	●	●	AUD_VCC	
AUD_FPOUT_R	●	●	AUD_RET_R	
NC	●	□	KEY	
AUD_FROUT_L	●	●	AUD_RET_L	
	9	10		



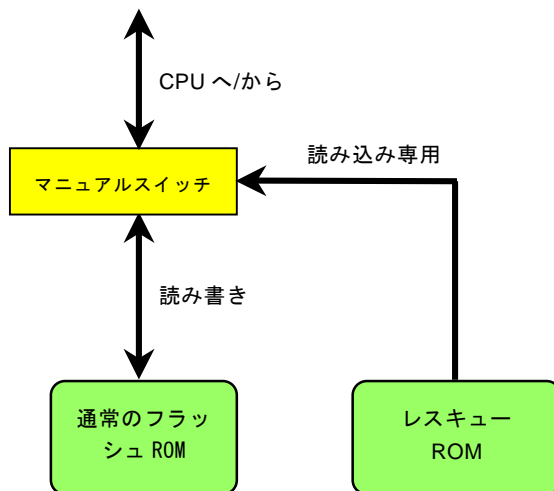
ダイハードBIOS (100%ウイルス防止機能)

最近では BIOS コードおよびデータ領域を破壊するコンピューターウイルスが多く発見されています。当マザーボードには、ソフトウェアや BIOS コードによらないハードウェアによるウイルス防止装置がありますので、ウイルス防止効果は 100%です。正常動作できない場合に、JP30 を 2 番ピンと 3 番ピンに設定して二番目の BIOS ROM でオリジナルの BIOS に回復することができます。お買い求めのマザーボード上には 1 個の BIOS フラッシュ ROM が実装されています。



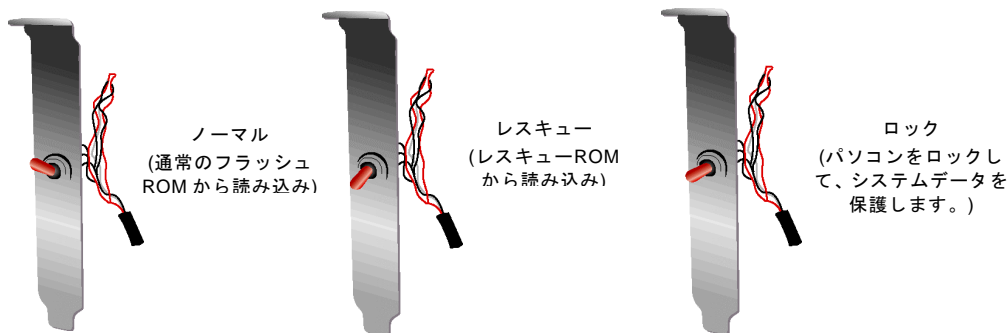
ダイハードBIOS 用外部コントローラ

外部コントローラーにより、コンピュータの筐体を開けずに BIOS モードを“レスキュー”および“ノーマル”間で切り替えられます。これにはマザーボードのコネクタピン(JP30)にジャンパーケーブルを差す必要があります。コネクタの向きにご注意ください。赤い線が 1 番ピン側に合わせます。



注意: BIOS がウイルスに感染したと思われる場合には、以下の操作を行います。

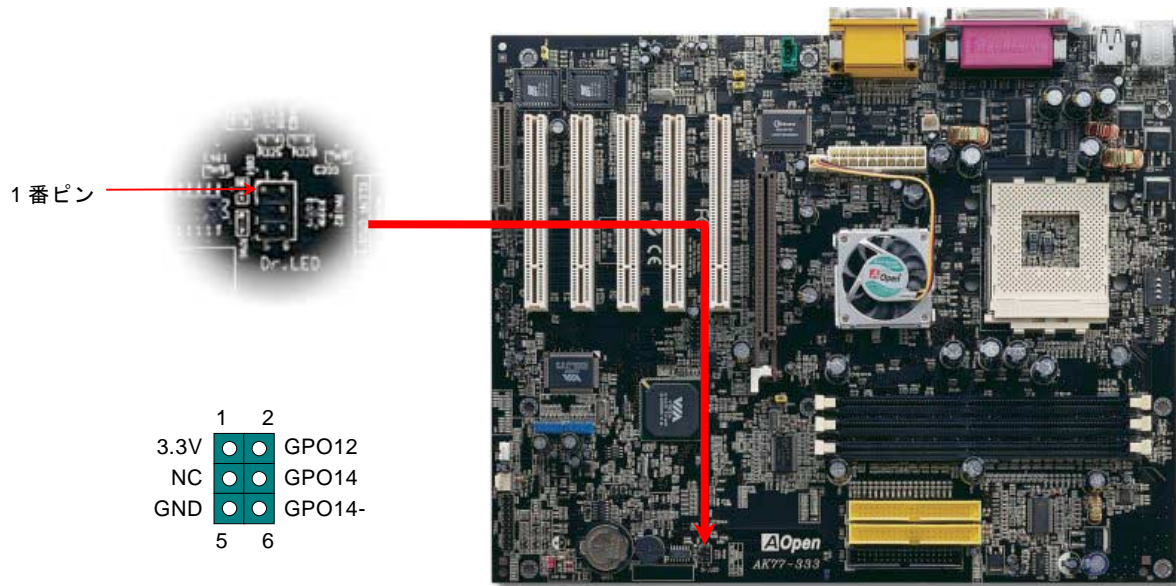
1. システムをオフにし、外部コントローラを“レスキュー”にしてレスキューROM から読み込みます。
2. システムを起動し、スイッチを“ノーマル”に戻します。
3. BIOS アップグレードの手順に従って BIOS を復旧させます。
4. システムを再起動すると、正常時に戻ります。



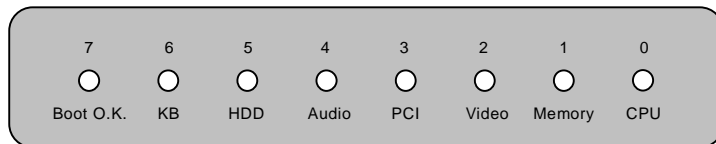
ヒント: スイッチを中央の位置にすると (上図の3番目のように)、システム起動は不能になりますから、ウイルス攻撃からデータを保護できます。

Dr. LED コネクタ (アップグレード オプション)

Dr. LED (オプション) を併用すると、PC 組立て時に直面するシステム上の問題が容易に把握できます。Dr. LED のフロントパネルにある 8 個の LED 表示により、問題がコンポーネントなのか、インストール関係なのかを理解できます。これによりご使用のシステムの自己チェックが容易に行えます。



Dr. LED はフロントパネルに 8 個の LED を有する CD ディスク保管ボックスで、Dr. LED のサイズは 5.25 フロッピードライブと全く同じですから、通常の筐体の 5.25 インチドライブベイに容易にインストールできます。



システム起動時にエラーが生じると 8 個の内その段階に応じた LED が点灯します。7 番 LED (最後に点灯する LED) が点灯すれば、システムは正常に起動したことを表します。

8 個の LED はそれぞれ点灯時に以下の意味を有します。

LED 0 –CPU が正しくインストールされていないか故障しています。

LED 1 –メモリが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 2 –AGP が正しくインストールされていないか故障しています。

LED 3 –PCI カードが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 4 –フロッピードライブが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 5 –HDD が正しくインストールされていないか故障しています。

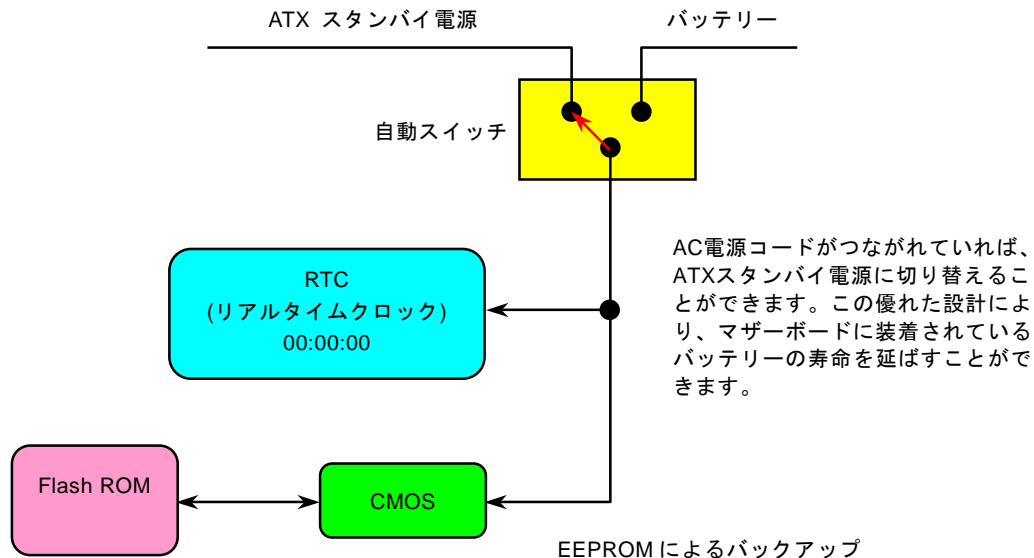
LED 6 –キーボードが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 7 –システムは正常に起動しています。

注意: POST (電源投入時の自己診断) 実行中に、システム起動完了までの間、デバッグ LED は LED0 から LED7 まで順繰りに点灯します。

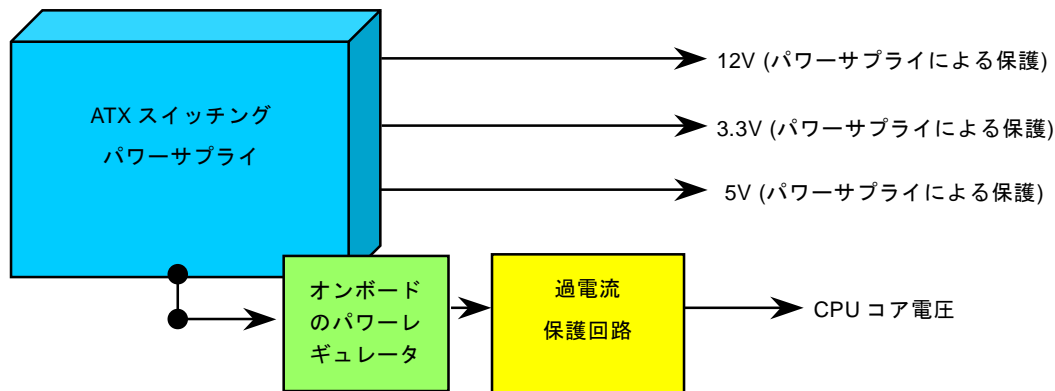
バッテリー不要及び耐久設計

このマザーボードには[フラッシュ ROM](#)と特殊回路が搭載されていますので、ご使用の CPU と CMOS 設定をバッテリー無しで保存できます。RTC (リアルタイムクロック) は電源コードがつながれている間動作し続けます。何らかの理由で CMOS データが紛失された場合、Flash ROM から CMOS 設定を再度読み込むだけでシステムは元の状態に復帰することができます。



過電流保護

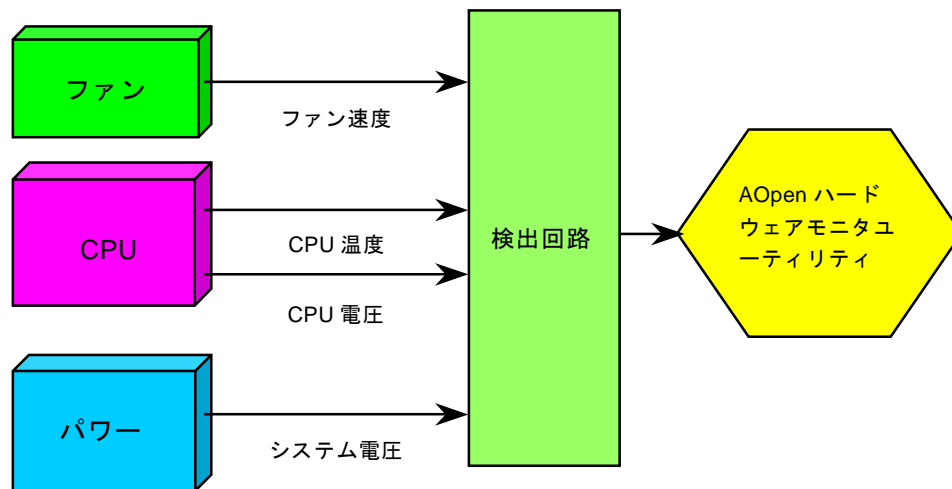
過電流保護機能は ATX 3.3V/5V/12V のスイッチングパワーサプライに採用されている一般的な機能です。しかしながら、新世代の CPU は違う電圧を使用し、5V から CPU 電圧（例えば 2.0V）を独自に生成するため、5V の過電流保護は意味を持たなくなります。このマザーボードには CPU 過電流保護をオンボードでサポートするスイッチングレギュレータを採用、3.3V/5V/12V のパワーサプライに対するフルレンジの過電流保護を提供しています。



注意: 保護回路の採用により人為的な操作ミスを防ぐようになっていますが、このマザーボードにインストールされている CPU、メモリ、ハードディスク、アドオンカード等がコンポーネントの故障、人為的操作ミス、原因不明の要素により損傷を受ける場合がありますので、AOpen は保護回路が常に正しく動作することを保証いたしかねます。

ハードウェアモニタ機能

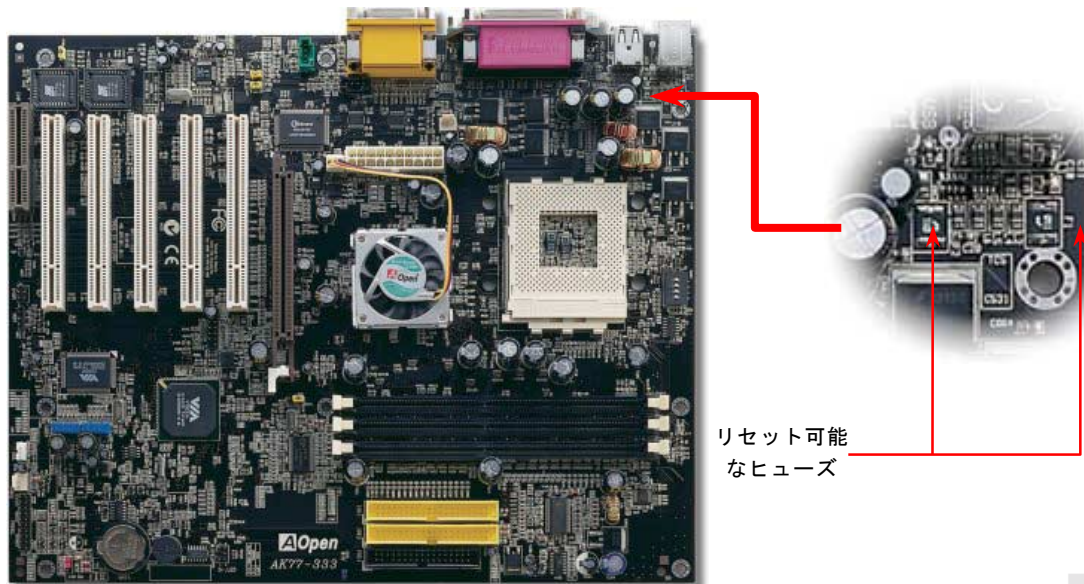
このマザーボードにはハードウェアモニタ機能が備わっています。この巧妙な設計により、システムを起動した時から、システム動作電圧、ファンの状態、CPU 温度を監視されます。これらのシステム状態のいずれかが問題のある場合、AOpen [ハードウェアモニタユーティリティ](#) より、警告メッセージが出されます。



リセット可能なヒューズ

従来のマザーボードではキーボードやUSBポートの過電流または短絡防止にヒューズが使用されています。これらのヒューズはボードにハンダ付けされていますので、故障した際(マザーボードを保護するため)、ヒューズを交換できず、マザーボードも故障したままにされることになります。

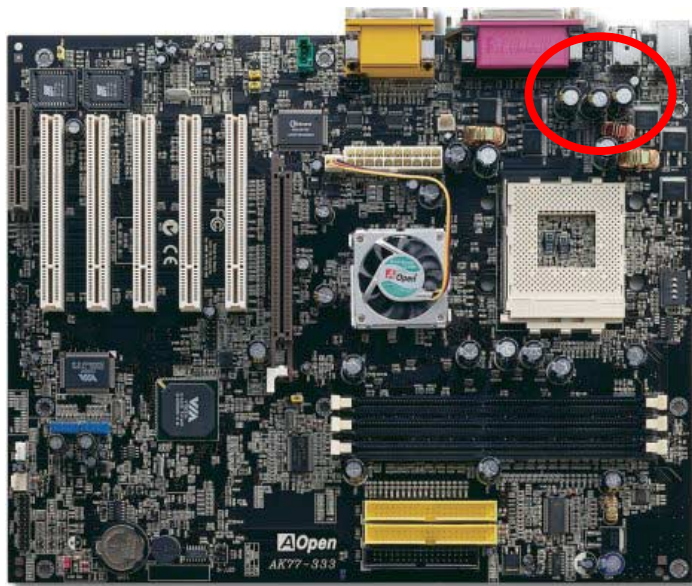
高価なリセット可能なヒューズの保護機能により、マザーボードは正常動作に復帰できます。



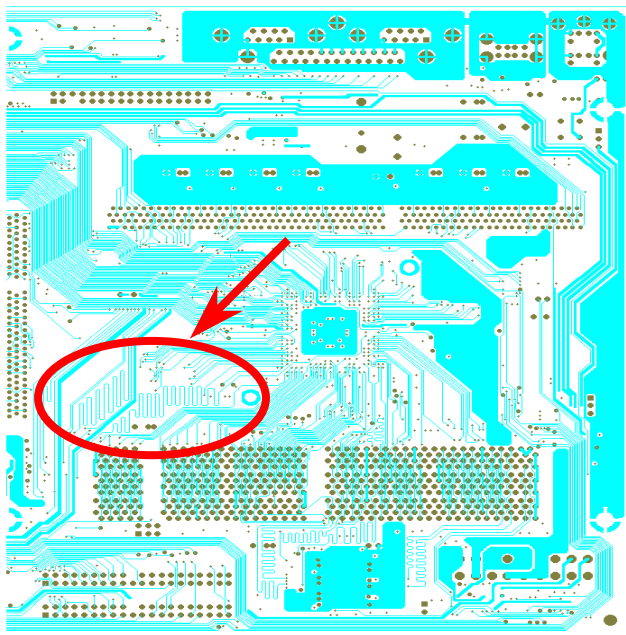
2200 μ F 低 ESR コンデンサー

高周波数動作中の低 ESR コンデンサー (低等価直列抵抗付き)の品質は CPU パワーの安定性の鍵を握ります。これらのコンデンサーの設置場所は 1つのノウハウであり、経験と精密な計算が要求されます。

加えて、このマザーボードには通常の容量(1000 または 1500 μ F)を上回る 2200 μ F コンデンサーが使用され、より安定した CPU パワーを保証します。



レイアウト (周波数分離ウォール)

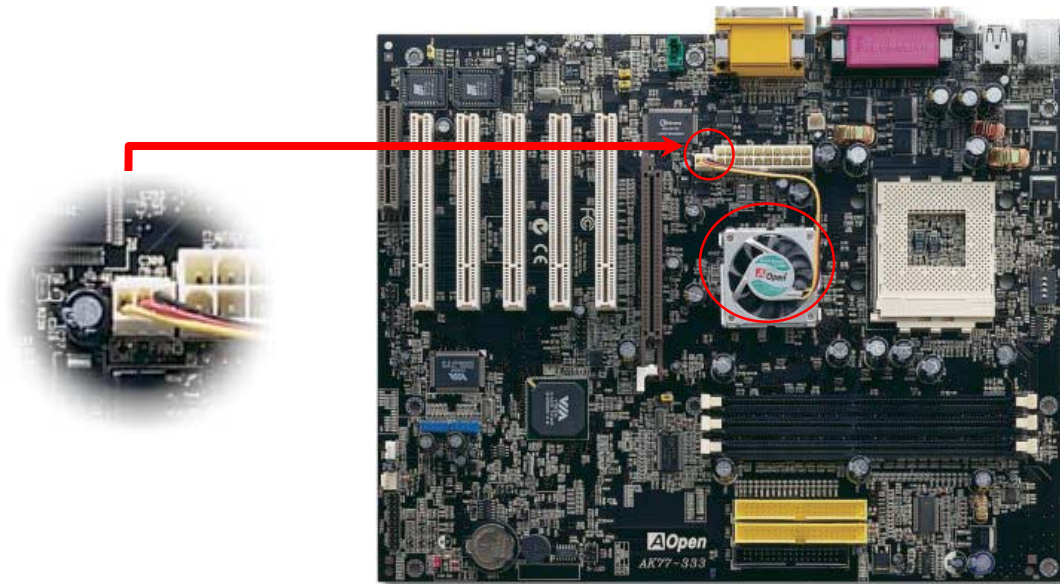


高周波時の操作、特にオーバークロックの場合においては、チップセットとCPUの安定動作を決定付ける最も重要な要素となるのはレイアウトです。このマザーボードでは「周波数分離ウォール (Frequency Isolation Wall)」と呼ばれる AOpen 独自の設計が採用されています。マザーボードの各主要領域を、動作時の各周波数が同じか類似している範囲に区分けすることで、互いの動作やモードのクロストークや干渉が生じにくいようになっています。トレース長および経路は注意深く計算される必要があります。例えばクロックのトレースは同一長となるよう(必ずしも最短ではない)にすることで、クロックスキューは数ピコ秒(1/10¹² Sec)以内に抑えられています。

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

ノースブリッジのファンシンク

よりよい冷却効果を果たし、チップセットのより安定的な動作を保証するため、ノースブリッジにファンシンク的设计を取り入れました。ノースブリッジにファンシンクを取り付けたら、コネクタをマザーボード上の FAN3 (AUX Fan) と称されるヘッダーに接続します。



ドライバ及びユーティリティ

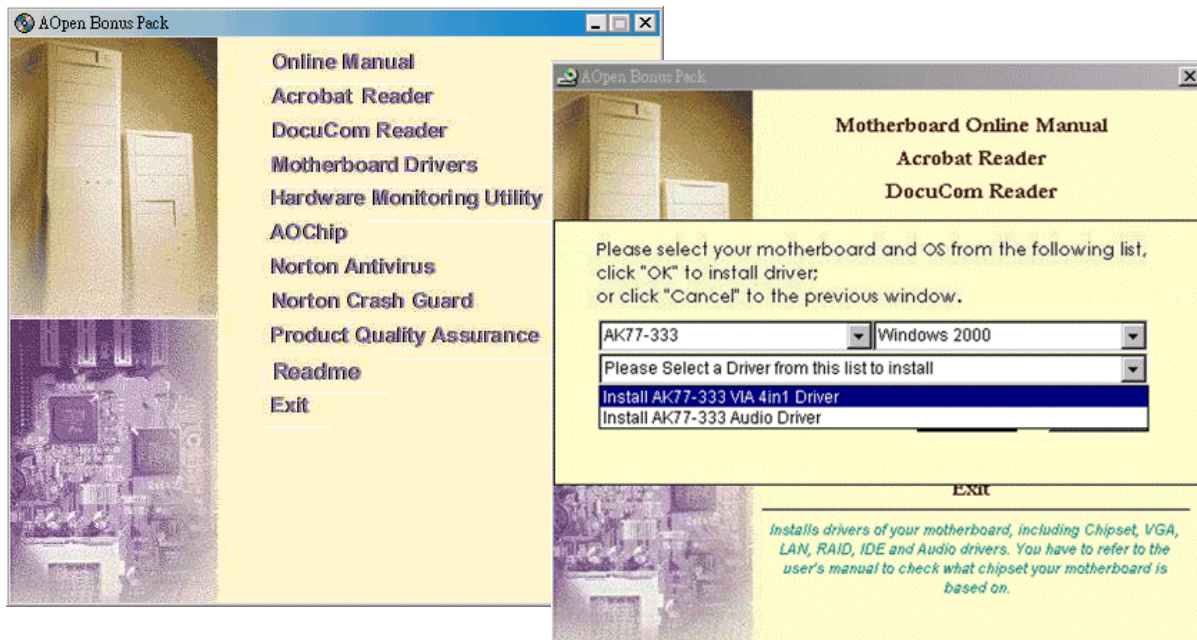
[AOpen Bonus CD ディスク](#)にはマザーボードのドライバとユーティリティが収録されています。システム起動にこれら全てをインストールする必要はありません。ただし、ハードウェアのインストール後、ドライバやユーティリティのインストール以前に、まず Windows 98 等の基本ソフトをインストールする必要があります。ご使用になる基本ソフトのインストールガイドをご覧ください。



注意: 推薦の手順に従って、[Windows 95](#) 及び Windows 98 をインストールしてください。

Bonus CD ディスクからのオートランメニュー

Bonus CD ディスクのオートラン機能を利用できます。ユーティリティとドライバを指定し、モデル名を選んでください。



Windows 95 のインストール

1. まず、[AGP](#)カード以外のいかなるアドオンカードをインストールしないでください。
2. Windows 95 OSR2 v2.1、1212、1214 及び USB 対応のそれ以降のバージョンをインストールしてください。さもないと、USBSUPP.EXE.をインストールする必要があります。
3. VIA AGP Vxd ドライバ、IRQ 経路指定ドライバ、VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ及び VIA チップセット機能登録プログラムを含む[VIA 4 in 1 ドライバ](#)をインストールしてください。
4. 最後に、他のアドオンカード及びそれらのドライバをインストールしてください。

Windows 98 のインストール

1. まず、[AGP](#)カード以外のいかなるアドオンカードをインストールしないでください。
2. BIOS が IRQ の指定を完全に制御できるように、**BIOS Setup > Advanced Chipset Features > OnChip USB** より USB コントローラーをオンにしてください。
3. システムに **Window 98** をインストールしてください。
4. VIA AGP Vxd ドライバ、IRQ 経路指定ドライバ、VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ及び VIA チップセット機能登録プログラムを含む[VIA 4 in 1 ドライバ](#)をインストールしてください。
5. 最後に、他のアドオンカード及びそれらのドライバをインストールしてください。

Windows® 98 SE, Windows® ME 及び Windows® 2000 のインストール

Windows® 98 第二版、Windows® Millennium 或いは Windows® 2000 をご使用される場合に、IRQ 経路指定ドライバ及び ACPI 登録は既に基本ソフトに内包されていますので、4-in-1 ドライバをインストールする必要はありません。Windows® 98 SE をご使用の方には、VIA 登録プログラム INF 及び AGP ドライバをそれぞれインストールして更新すればいいです。

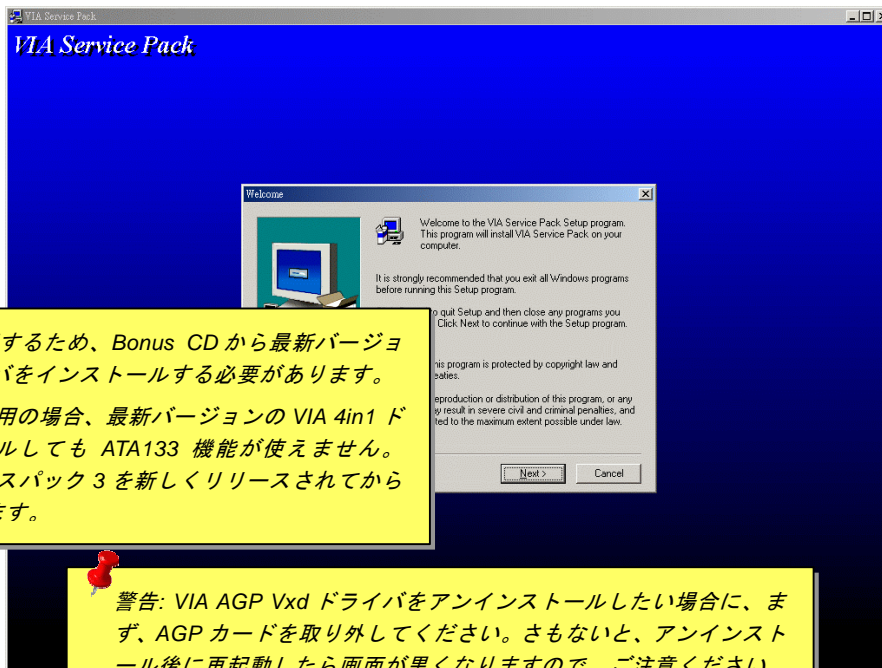
[VIA Technologies Inc.](http://www.via.com/) のウェブサイトまで、4 in 1 ドライバの最新バージョンをご確認ください。

<http://www.via.com/>

<http://www.via.com/drivers/4in1420.exe>

VIA 4 in 1 ドライバのインストール

Bonus Pack CD ディスクのオートランメニューから、VIA 4 in 1 ドライバ([IDE Bus master](#) (Windows NT 用)、VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ、VIA [AGP](#)、IRQ 経路指定ドライバ(Windows 98 用)、VIA 登録(INF)ドライバ)をインストールできます。



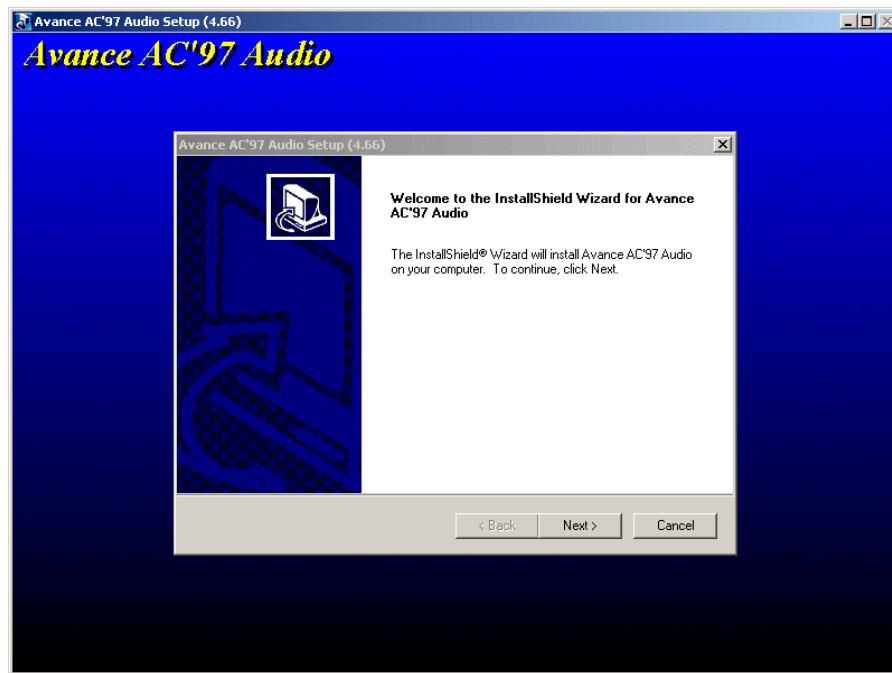
警告：ATA133 を利用するため、Bonus CD から最新バージョンの VIA 4in1 ドライバをインストールする必要があります。

Windows2000 をご使用の場合、最新バージョンの VIA 4in1 ドライバをインストールしても ATA133 機能が使えません。Microsoft からサービスパック 3 を新しくリリースされてから機能するようになります。

警告：VIA AGP Vxd ドライバをアンインストールしたい場合に、まず、AGP カードを取り外してください。さもないと、アンインストール後に再起動したら画面が黒くなりますので、ご注意ください。

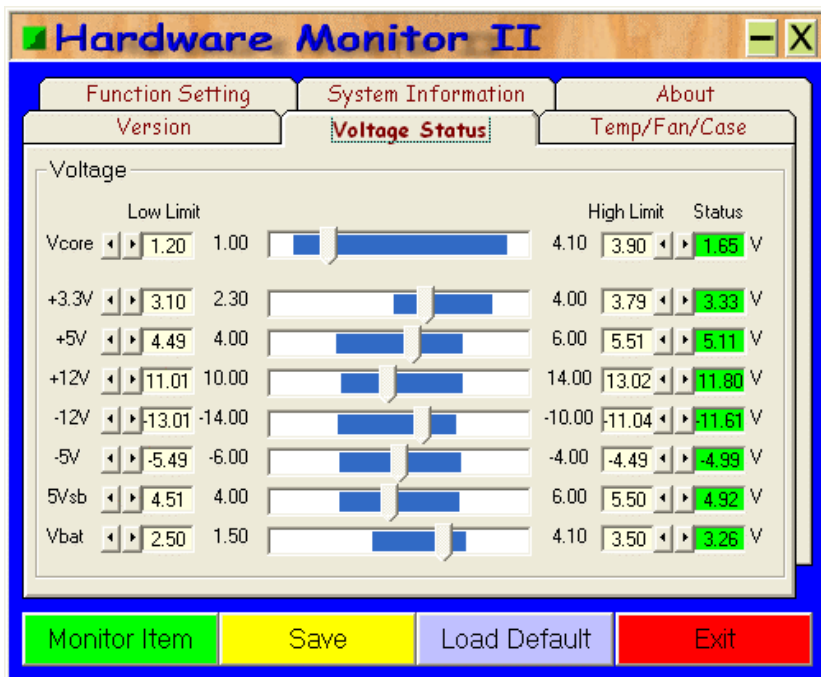
オンボードサウンドドライバのインストール

このマザーボードには Realtek ALC650 [AC97 サウンド CODEC](#) が装備されており、サウンドコントローラが VIA サウンドブリッジチップセットにあります。オーディオドライバは Bonus Pack CD ディスクオートランメニューから見つげられます。



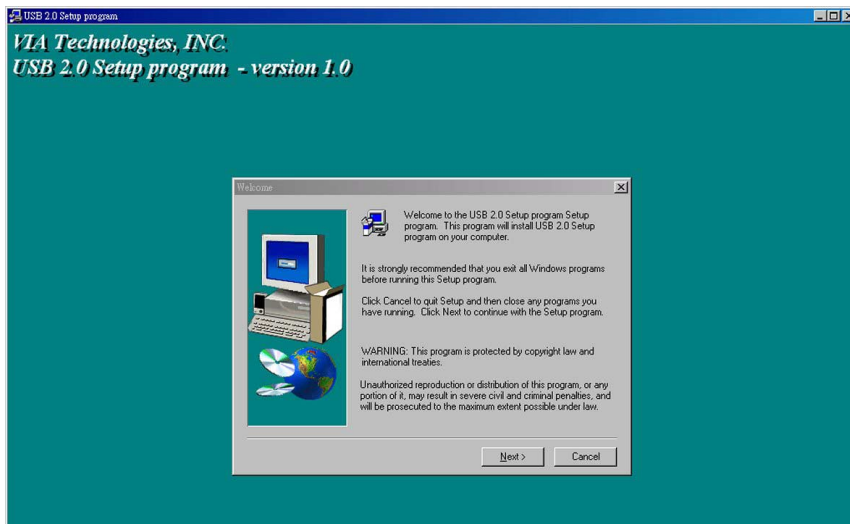
ハードウェアモニタユーティリティのインストール

ハードウェアモニタユーティリティをインストールすることで、CPU 温度、ファン速度、システム電圧のモニタが可能です。ハードウェアモニタ機能は、BIOS およびユーティリティソフトウェアにより自動的に導入されます。ハードウェアのインストールは不要です。



USB2.0 ドライバのインストール (AK77-333(USB2.0)のみ, オプション)

当マザーボードは USB2.0 機能を提供しています。Bonus Pack CD ディスクオートランメニューから Windows 98SE、Windows ME、Windows 2000 及び Windows XP において、USB2.0 ドライバをインストールすることができます。



注意 : WinME 環境において USB 2.0 ドライバをインストールしたら、"VIA USB 2.0 Enhanced Host Controller" 項目に緑色の質問マークが表示されます。それはエラーメッセージではありませんので、無視してください。

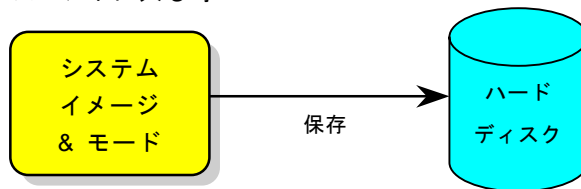
(このページはメモにお使いください)

(このページはメモにお使いください)

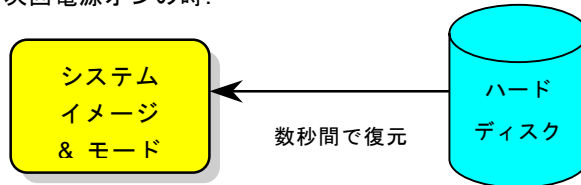
ACPI ハードディスクサスペンド

ACPI ハードディスクサスペンドは基本的には **Windows** の基本ソフトで管理されます。これで現在の作業 (システムモード、メモリ、画像イメージ)がハードディスクに保存され、システムは完全にオフにできます。次回電源をオンにした時は **Windows** やアプリケーションの起動をせずに先回の作業がハードディスクから再度読み込まれ数秒間で復元されます。ご使用のメモリが通常の **64MB** であれば、メモリイメージを保存するため **64MB** のハードディスク空き領域が必要です。

サスペンドに入る時:



次回電源オンの時:



必要なシステム環境

1. **AOZVHDD.EXE 1.30b** またはそれ以降のバージョン
2. **config.sys** 及び **autoexec.bat** を削除

新システムにおける Windows 98 の初回インストール

1. "**Setup.exe /p j**"を実行して、Windows 98 をインストールします。
2. Windows 98 のインストール完了後、**コントロールパネル>電源の管理**を開きます。
 - a. **電源の設定 >システムスタンバイ**を"なし"に設定します。
 - b. "ハイバネーション"をクリックし、"ハイバネーションサポートを有効にする"を指定、"適用"をクリックします。
 - c. "詳細設定"タブをクリックしたら、"パワーボタン"上に"ハイバネーション"が表示されます。このオプションは上記のステップ b が実行されたあとでのみ表示され、未実行であれば、"スタンバイ"および"シャットダウン"だけが表示されます。"ハイバネーション"を選び、"適用"をクリックします。
3. DOS を起動し、AOZVHDD ユーティリティを実行します。
 - a. ディスク全体が Win 98 システムで使用される(FAT 16 又は FAT 32)場合は、"**aozvhd /c /file**"を実行します。また、ディスクに十分な空きスペースが必要である点をお忘れなくください。例えば、64 MB DRAM 及び 16 MB VGA カードをインストールする場合、システムには最小 80 MB の空きスペースが必要です。ユーティリティは空きスペースを自動的に探します。
 - b. Win 98 用にパーティションを切っている場合、"**aozvhd /c /partition**"を実行します。当然ですが、システムには未フォーマットの空きパーティションが必要です。
4. システムを再起動します。
5. これで **ACPI** ハードディスクサスペンドが使用可能になりました。"**スタート > シャットダウン>スタンバイ**"で画面は自動的にオフになります。システムがメモリ内容をハードディスクに保存するには 1 分程かかります。メモリサイズが大きくなるとこれに要する時間が長くなります。

APM から ACPI への変更 (Windows 98 のみ)

1. "Regedit.exe"を実行します。
 - a. 以下のパスをたどります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
SOFTWARE
MICROSOFT
WINDOWS
CURRENT VERSION
DETECT
```
 - b. "バイナリの追加"を選び、"**ACPIOPTION**"と名前を付けます。
 - c. 右クリックして**変更**を選び、"0000"の後に"01"を付けて"0000 01"とします。
 - d. 変更を保存します。
2. コントロールパネルから"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際 "**ACPI BIOS**"が検出され、"**Plug and Play BIOS**"が削除されます。)
3. システムを再起動します。
4. DOS を起動し、"AOZVHDD.EXE /C /File"を実行します。

ACPI から APM への変更

1. "Regedit.exe"を実行します。
 - a. 以下のパスをたどります。

HKEY_LOCAL_MACHINE

SOFTWARE

MICROSOFT

WINDOWS

CURRENT VERSION

DETECT

ACPI OPTION

b. 右クリックして**変更**を選び、"0000"の後に"02"を付けて"0000 02"とします。

ヒント: "02"は、Windows 98 が ACPI を検出したものの、ACPI 機能はオフになっていることの目印です。

c. 変更を保存します。

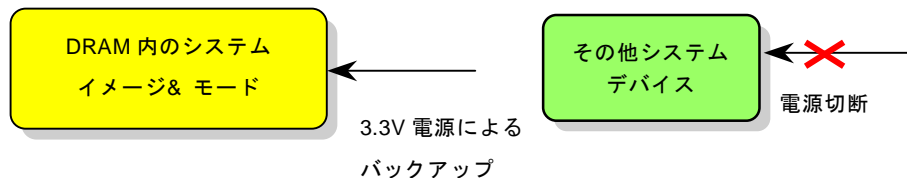
2. コントロールパネルから、"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際 "**Plug and Play BIOS**"が検出され、"**ACPI BIOS**"が削除されます。)
3. システムを再起動します。
4. "新たなハードウェアの追加"を再度開くと、"**Advanced Power Management Resource**"が検出されます。
5. "OK"をクリックします。

ヒント:現在のところ、ATI 3D Rage Pro AGP カードのみが ACPI ハードディスクサスペンドをサポートしています。最新情報は AOpen ウェブサイトをご覧ください。

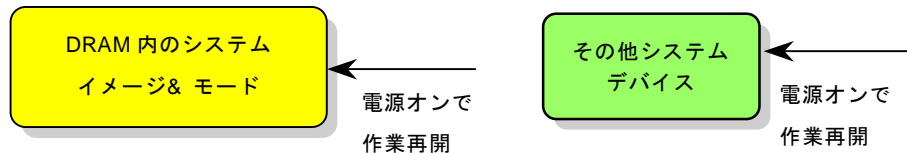
ACPI サスペンドトゥーRAM (STR)

このマザーボードはACPIサスペンドトゥーRAM機能をサポートしています。この機能により、Windows 98 やアプリケーションの再起動せずに、先回の作業をDRAMから再現することが可能です。DRAMへのサスペンドは作業内容をシステムメモリに保存するので、ハードディスクサスペンドより高速ですが、DRAMへの電力供給が必要である面、電力消費がないハードディスクサスペンドとは異なります。

サスペンドに入る時:



次回パワーオンの時:



ACPI サスペンドトゥーDRAM を使用可能にするには、以下の手順に従います。

必要なシステム環境

1. ACPI 対応の基本ソフトが必要です。現在 Windows 95 及び Windows NT 以外の基本ソフトは ACPI をサポートしています。
2. VIA 4 in 1 ドライバが正しくインストールされている必要があります。

手順

1. 以下の BIOS 設定を変更します。

BIOS Setup > Power Management Setup > [ACPI Function](#): Enabled (オン)

BIOS Setup > Power Management Setup > [ACPI Suspend Type](#): S3.

2. [コントロールパネル](#)>[電源の管理](#)とたどります。“パワーボタン”を“スタンバイ”に設定します。
3. パワーボタンまたはスタンバイボタンを押すとシステムが復帰します。

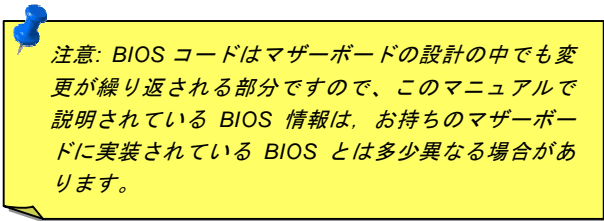
AWARD BIOS

システムパラメータの変更は[BIOS](#) セットアップメニューから行えます。このメニューによりシステムパラメータを設定し、128 バイトの **CMOS** 領域 (通常、**RTC** チップの中か、またはメインチップセットの中)に保存できます。

マザーボード上の[フラッシュ ROM](#)にインストールされている AwardBIOS™は工場規格 BIOS のカスタムバージョンです。BIOS はハードディスクドライブや、シリアル・パラレルポートなどの標準的な装置の基本的な入出力機能を管理する肝心のプログラムです。

AK77-333 の BIOS 設定の大部分は AOpen の R&D エンジニアリングチームによって最適化されています。しかし、システム全体に適合するよう、BIOS のデフォルト設定だけでチップセット機能を細部に至るまで調整するのは不可能です。その故に、この章の以下の部分には、セットアップを利用したシステムの設定方法が説明されています。

[BIOS セットアップメニューを表示するには](#)、[POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#) 実行中にキーを押してください。



注意: BIOS コードはマザーボードの設計の中でも変更が繰り返される部分ですので、このマニュアルで説明されている BIOS 情報は、お持ちのマザーボードに実装されている BIOS とは多少異なる場合があります。

Award™ BIOS セットアッププログラムの使用方法

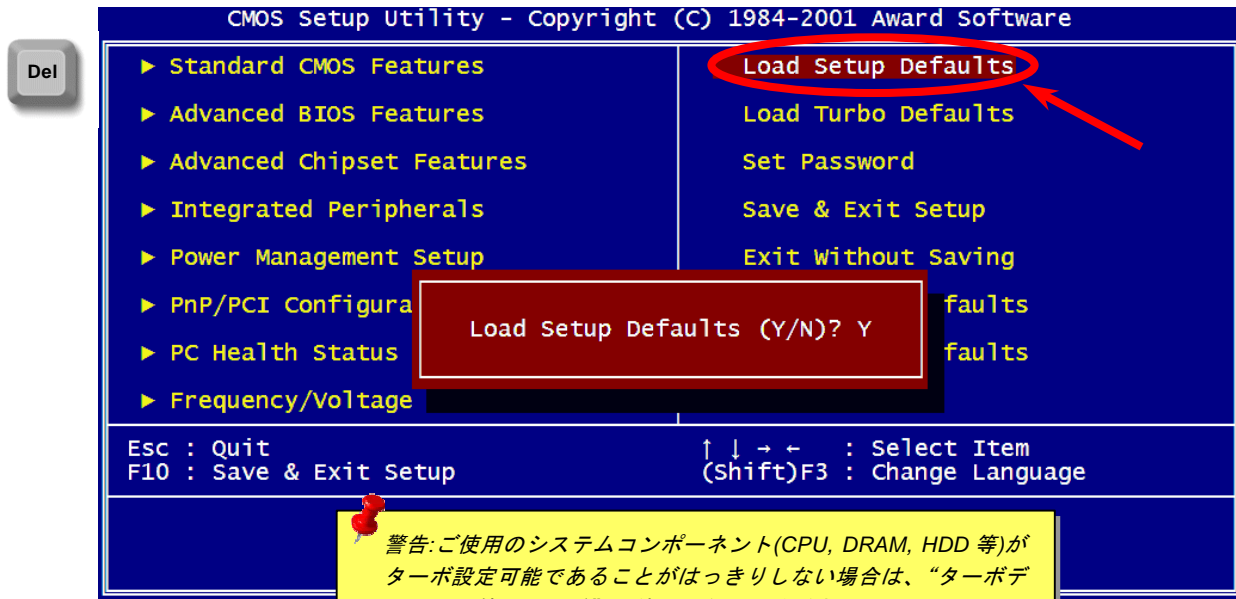
一般には、選択する項目を矢印キーでハイライト表示させ、<Enter>キーで選択、<Page Up>および<Page Down>キーで設定値を変更します。また<F1>キーでヘルプ表示、<Esc>キーで Award™ BIOS セットアッププログラムを終了できます。下表には Award™ BIOS セットアッププログラム使用時のキーボード機能が説明されています。さらに全ての AOpen マザーボード製品では BIOS セットアッププログラムに特別な機能が加わっています。それは<F3>キーで表示する言語の指定が可能である点です。

キー	説明
Page Up または+	次の設定値に変更または設定値を増加させる
Page Down または-	前の設定値に変更または設定値を減少させる
Enter	項目の選択
Esc	1. メインメニュー内: 変更を保存せずに中止 2. サブメニュー内: サブメニューからメインメニューに戻る
↑	前の項目をハイライト表示する
↓	次の項目をハイライト表示する
←	メニュー内のハイライト部分を左に移動
→	メニュー内のハイライト部分を右に移動
F1	メニューや項目のヘルプを表示する
F3	メニュー言語の変更
F5	CMOS から前回の設定値をロード

キー	説明
F6	CMOS からフェイルセーフ設定値をロード。
F7	CMOS からターボ設定値をロード。
F10	変更を保存してセットアップを終了

BIOS セットアップの起動方法

ジャンパー設定およびケーブル接続が正しく行われたなら準備完了です。システムに電源を入れて、[POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#) 実行中にキーを押すと、BIOSセットアップに移行します。最適なパフォーマンスを実現するには "Load Setup Defaults (デフォルト値のロード)" を選択してください。



Windows 環境における BIOS のアップグレード



Aopen は優秀な R&D 能力により開発された斬新な BIOS フラッシュウィザード ---- EZWinFlash を提供します。ユーザーの便宜を図るため、EZWinFlash は BIOS バイナリコードとフラッシュモジュールを統合していますので、ウェブサイトからユーティリティをダウンロードし、クリックするだけでフラッシュ過程を自動的に完了してくれます。EZWinFlash はご使用のマザーボードと BIOS バージョンを確認しますので、可能なフラッシュエラーを防ぎます。さらに、EZWinFlash は既にご使用になりそうなあらゆる windows プラットフォームを考慮に入れましたので、Windows 95/98 から 98SE/ME、NT4.0/2000 または最新の Windows XP まで全部使用可能です。

その同時に、より操作しやすい環境を提供するため、AOpen EZWinFlash は多国語機能の設計を取り入れて、BIOS 設定の変更によりしやすい方法を提供します。

EzWinFlash V1.0.0 - 28 Nov, 2001, 16:54:25

Flash ROM Information		CheckSum : F1A9H	Start Flash
Flash Type	Intel E82802AB /3.3V (4Mb)	Option	
Current BIOS Information		<input type="checkbox"/> Clear PnP Area	Save BIOS
Model Name	AX3SPlus	<input type="checkbox"/> Clear DMI Area	
BIOS Version	R1.09	<input checked="" type="checkbox"/> Clear CMOS	About
Release Date	Oct.09.2001	Language	
New BIOS Information		<input checked="" type="radio"/> English	Exit
Model Name	AX3SPlus	<input type="radio"/> German	
BIOS Version	R1.09	<input type="radio"/> Chinese-BIG5	
Release Date	Oct.09.2001	Message	
If you are sure to program new BIOS, please press [Start Flash] button.			


警告：マザーボードのフラッシュ操作をすることには、BIOS フラッシュエラーの可能性が伴うことをご承知ください。マザーボードが正常に安定動作しており、最新の BIOS バージョンで大きなバグフィックスがなされていない場合は、BIOS のアップデートは行わないようお勧めします。

アップグレードを実行する際には、マザーボードモデルに適した正しい BIOS バージョンを必ず使用するようにしてください。

下記の手順に従って、EZWinFlash で BIOS のアップグレードを完了してください。アップグレードを開始する前に、必ず全てのアプリケーションを終了してください。

1. AOpen のウェブサイト(<http://www.aopen.com>)から最新の BIOS パッケージ zip ファイルをダウンロードします。
2. Windows において、WinZip (<http://www.winzip.com>)で BIOS パッケージ(例えば、WAK77333102.ZIP)を解凍します。
3. 解凍したファイルをフォルダに保存します。たとえば、WAK77333102.EXE 及び WAK77333102.BIN.です。
4. WAK77333102.EXE をダブルクリックしたら、EZWinFlash はご使用のマザーボードのモデルネーム及び BIOS バージョンを検出します。BIOS が間違ったら、フラッシュ操作を続行することはできません。
5. 主要メニューから好みの言語を選択し、[フラッシュ開始]をクリックしたら BIOS アップグレードが開始します。
6. EZWinFlash はアップグレード作業を自動的に完了します。完了後、ポップアップダイアログボックスからコンピュータを再起動するよう聞いてきますので、[はい]をクリックして Windows を再起動します。
7. POST 時にキーを押して[BIOS セットアップ](#)を起動します。"Load Setup Defaults"を選び、"Save & Exit Setup (保存して終了) します。

フラッシュ処理の際に、絶対にアプリケーションを実行したり電源を切ったりしないで下さい!!



警告:フラッシュ時には以前の BIOS 設定およびプラグアンドプレイ情報は完全に置き換えられます。システムが以前のように動作するには、BIOS の再設定が必要となります。

オーバークロック

マザーボード業界での先進メーカーである AOpen は常にお客様のご要望に耳を傾け、ユーザー皆様の様々なご要求に合った製品を開発してまいりました。マザーボードの設計の際の私たちの目標は、信頼性、互換性、先進テクノロジー、ユーザーフレンドリーな機能です。これら設計上の分野の一方には、“オーバークロッカー”と呼ばれるシステム性能をオーバークロックにより限界まで引き出すよう努めるパワーユーザーが存在します。

このセクションはオーバークロッカーの皆さんを対象にしています。

この高性能マザーボードは最大 133MHz バスクロックをサポートします。しかしこれはさらに将来の CPU バスクロック用に 248MHz まで使用可能なように設計されています。弊社ラボのテスト結果によれば、高品質のコンポーネントと適切な設定により 150MHz が到達可能であることを示しています。150MHz へのオーバークロックは快適で、さらにマザーボードにはフルレンジ(CPU コア電圧) 設定および CPU コア電圧調整のオプション機能が備わっています。CPU クロックレシオは最大 12.5 倍で、これは Athlon / Duron CPU の大部分に対してオーバークロックの自由度を提供するものです。参考までに 150MHz バスクロックへとオーバークロックした際の設定値を紹介します。

これはオーバークロック動作を保証するものではありません。☺

ヒント: オーバークロックによる発熱問題も考慮に入れてください。冷却ファンとヒートシンクが CPU のオーバークロックにより生じる余分の熱を放散する能力があるか確認してください。

警告: この製品は CPU およびチップセットベンダーの設計ガイドラインにしたがって製造されています。製品仕様を超える設定は薦められている範囲外であり、ユーザーはシステムや重要なデータの損傷などのリスクを個人で負わなければなりません。オーバークロックの前に各コンポーネント特に CPU、メモリ、ハードディスク、AGP VGA カード等が通常以外の設定に耐えるかどうかを確認してください。

VGA カード及びハードディスク

VGA およびハードディスクはオーバークロック時に重要なコンポーネントです。以下のリストは弊社ラボでテスト済みの成功例です。上述のリスト中におけるコンポーネントで再度オーバークロックに成功できるかどうかは AOpen では保証いたしかねますのでご注意ください。弊社の公式ウェブサイトまで使用可能なベンダーリスト (AVL) をご確認ください。

VGA: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/vga-oc.htm>

HDD: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/hdd-oc.htm>

用語解説

AC97 サウンドコーデック

基本的には AC97 規格はサウンドおよびモデム回路を、デジタルプロセッサおよびアナログ入出力用の [CODEC](#) の 2 つに分け、AC97 リンクバスでつないだものです。デジタルプロセッサはマザーボードのメインチップセットに組み込めるので、サウンドとモデムのオンボードのコストを軽減することができます。

ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース)

ACPI は PC97 (1997) のパワーマネジメント規格です。これはオペレーションシステムへのパワーマネジメントを [BIOS](#) をバイパスして直接制御することで、より効果的な省電力を行うものです。チップセットまたはスーパー I/O チップは Windows 98 等のオペレーションシステムに標準レジスタインタフェースを提供する必要があります。この点は [PnP](#) レジスタインタフェースと少し似ています。ACPI によりパワーモード変更時の ATX 一時ソフトパワースイッチが設定されます。

AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)

AGP は高性能 3D グラフィックスを対象としたバスインタフェースです。AGP はメモリへの読み書き作業、1 つのマスター、1 つのスレーブのみをサポートします。AGP は 66MHz クロックの立ち上がりおよび下降の両方を利用し、2X AGP ではデータ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 2 = 528\text{MB/s}$ となります。AGP は現在 4X モードに移行中で、この場合は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ となります。AOpen は 1999 年 10 月から AX6C (Intel 820) および MX64/AX64 (VIA 694x) により 4X AGP マザーボードをサポートしている初のメーカーです。

AMR (オーディオ/モデムライザー)

AC97 サウンドとモデムのソリューションである [CODEC](#) 回路はマザーボード上または AMR コネクタでマザーボードに接続したライザーカード (AMR カード) 上に配置することが可能です。

AOpen Bonus Pack CD

AOpen マザーボード製品に付属のディスクで、マザーボード各種ドライバ、[PDF](#) 形式のオンラインマニュアル表示用の Acrobat Reader、その他役立つユーティリティが収録されています。

APM (アドバンスドパワーマネジメント)

[ACPI](#) とは異なり、BIOS が APM のパワーマネジメント機能の大部分を制御しています。AOpen ハードディスクサスペンドが APM パワーマネジメントの典型的な例です。

ATA (AT アタッチメント)

ATA はディスクインタフェースの規格です。80 年代に、ソフトウェアおよびハードウェアメーカー多数により ATA 規格が確立されました。AT とは International Business Machines Corp.(IBM) のパソコン/AT のバス構造のことです。

ATA/66

ATA/66 はクロック立ち上がりと下降時の両方を利用し、[UDMA/33](#) の転送速度の 2 倍となります。データ転送速度は PIO mode 4 あるいは DMA mode 2 の 4 倍で、16.6MB/s x 4 = 66MB/s です。ATA/66 を使用するには、ATA/66 IDE 専用ケーブルが必要です。

ATA/100

ATA/100 は現在発展中の IDE 規格です。ATA/100 も [ATA/66](#)と同様クロックの立ち上がりと降下時を利用しますが、クロックサイクルタイムは 40ns に短縮されています。それで、データ転送速度は $(1/40\text{ns}) \times 2 \text{ バイト} \times 2 = 100\text{MB/s}$ となります。ATA/100 を使用するには ATA/66 と同様、専用の 80 芯線 IDE ケーブルが必要です。

BIOS (基本入出カシステム)

BIOS は [EPROM](#) または [フラッシュ ROM](#) に常駐する一連のアセンブリルーチンおよびプログラムです。BIOS はマザーボード上の入出力機器およびその他ハードウェア機器を制御します。一般には、ハードウェアに依存しない汎用性を持たせるため、オペレーションシステムおよびドライバは直接ハードウェア機器ではなく BIOS にアクセスするようになっています。

Bus Master IDE (DMA モード)

従来の PIO (プログラマブル I/O) IDE では、機械的な操作待ちを含めた全ての動作を CPU から管理することが必要でした。CPU 負荷を軽減するため、バスマスターIDE 機器はメモリ間でのデータのやり取りを CPU を介さずに行うことで、データがメモリと IDE 機器間で転送中にも CPU の動作を遅くさせません。バスマスターIDE モードをサポートするには、バスマスターIDE ドライバおよびバスマスターIDE ハードディスクドライブが必要です。

CNR (コミュニケーション及びネットワークライザー)

CNR 規格は、今日の「つながれた PC」に広く使用される LAN、ホームネットワークング、DSL、USB、無線、オーディオ、モデムサブシステムを柔軟かつ低コストで導入する機会を PC 業界に提供します。CNR は、OEM 各社、IHV カードメーカー、チップ供給メーカー、Microsoft によって支持されているオープンな工業規格です。

CODEC (符号化および復号化)

通常、CODEC はデジタル信号とアナログ信号相互の変換を行う回路を意味します。これは[AC97](#) サウンドおよびモデムソリューションの一部です。

DDR (ダブルデータレテッド) SDRAM

DDR SDRAM は既存の DRAM インフラ構造とテクノロジーを使用しながら、システムが 2 倍のデータ転送を行えるようにするもので設計及び採用が容易です。当初大容量メモリを要するサーバー及びワークステーションの完璧なソリューションとして打ち出された DDR は、その低コスト及び低電圧のため、高性能デスクトップ機、モバイル PC、低価格 PC さらにはインターネット機器やモバイル機器まで、PC 市場の各分野での理想的なソリューションとなっています。

DIMM (デュアルインライン メモリモジュール)

DIMM ソケットには合計 168 ピンがあり、64 ビットのデータをサポートします。これには片面と両面とがあり、PCB の各側のゴールドフィンガー信号が異なり、このためデュアルインラインと呼ばれます。ほとんどすべての DIMM は動作電圧 3.3V の[SDRAM](#)で構成されます。旧式の DIMM には FPM/[EDO](#) を使用する物があり、これは 5V でのみ動作します。これは SDRAM DIMM と混同できません。

DMA (ダイレクトメモリアクセス)

メモリ及び周辺機器間での通信用のチャンネルです。

ECC (エラーチェックおよび訂正)

ECC モードは 64 ビットのデータに対し、8 ECC ビットが必要です。メモリにアクセスされる度に、ECC ビットは特殊なアルゴリズムで更新、チェックされます。パリティモードでは単ビットエラーのみが検出可能であるのに対し、ECC アルゴリズムは複ビットエラーを検出、単ビットエラーを自動訂正する能力があります。

EDO (拡張データ出力)メモリ

EDO DRAM テクノロジーは FPM (ファストページモード)と酷似しています。保存準備動作を開始し 3 サイクルでメモリデータ出力する従来の FPM とは異なり、EDO DRAM はメモリデータを次のメモリアクセスサイクルまで保持する点で、パイプライン効果に類似し、1 クロックモードの節約となります。

EEPROM (電子式消去可能プログラマブル ROM)

これは E²PROM とも呼ばれます。EEPROM および [フラッシュ ROM](#) は共に電気信号で書き換えができますが、インタフェース技術は異なります。EEPROM のサイズはフラッシュ ROM より小型です。

EPROM (消去可能プログラマブル ROM)

従来のマザーボードでは BIOS コードは EPROM に保存されていました。EPROM は紫外線(UV)光によってのみ消去可能です。BIOS のアップグレードの際は、マザーボードから EPROM を外し、UV 光で消去、再度プログラムして、元に戻すことが必要でした。

EV6 バス

EV6 バスは Digital Equipment Corp.社製の Alpha プロセッサテクノロジーです。EV6 バスは DDR SDRAM や ATA/66 IDE バスと同様、データ転送にクロックの立ち上がりと降下両方を使用します。

EV6 バスクロック = CPU 外部バスクロック x 2.

例えば、200 MHz EV6 バスは実際には 100 MHz 外部バスクロックを使用しますが、200 MHz に相当するクロックとなります。

FCC DoC (Declaration of Conformity)

DoC は FCC EMI 規定の認証規格コンポーネントです。この規格により、シールドやハウジングなしで DoC ラベルを DIY コンポーネント (マザーボード等)に適用できます。

FC-PGA (フリップチップ-ピングリッド配列)

FC とはフリップチップの意味で、FC-PGA は Intel の Pentium III CPU 用の新しいパッケージです。これは SKT370 ソケットに差えますが、マザーボード側で 370 ソケットへの追加信号を送る必要があります。これはマザーボードに新たな設計が必要であることを意味します。Intel は FC-PGA 370 CPU を出荷し、slot1 CPU は徐々に減少するでしょう。

フラッシュ ROM

フラッシュ ROM は電気信号で再度プログラム可能です。BIOS はフラッシュユーティリティにより容易にアップグレードできますが、ウイルスに感染し易くもなります。新機能の増加により、BIOS のサイズは 64KB から 256KB (2M ビット)に拡大しました。AOpen AX5T は最初に 256KB (2M ビット)フラッシュ ROM を採用したマザーボードです。現在、フラッシュ ROM サイズは AX6C (Intel 820)および MX3W (Intel 810)マザーボードのように 4M ビットへと移行中です。AOpen 製マザーボードは EEPROM を使用することでジャンパーとバッテリー不要の設計を実現しています。

FSB (フロントサイドバス)クロック

FSB クロックとは CPU 外部バスクロックのことです。

CPU 内部クロック = CPU FSB クロック x CPU クロックレシオ

⌘C Bus

[SMBus](#)をご覧ください。.

IEEE 1394

IEEE 1394 は Apple Computer がデスクトップ LAN として考案した低コストのデジタルインタフェースで、IEEE 1394 ワーキンググループによって発展してきました。IEEE 1394 ではデータ転送速度が 100, 200 または 400 Mbps となります。利用法の一つとして、デジタルテレビ機器を 200 Mbps で接続することが挙げられます。シリアルバスマネジメントにより、タイミング調整、バス上の個々の機器への適切な電力供給、同時時間性チャンネル ID 割り当て、エラー発生通知等のシリアルバスの設定制御が行われます。IEEE 1394 のデータ転送には 2 つの方式があります。1 つは非同期、他方はアイソクロノス (isochronous) 転送です。非同期転送は従来のコンピュータによるメモリへのマップ、ロード、ストアを行うインタフェースです。データ転送要求は特定のアドレスに送られ確認が返されます。日進月歩のシリコン技術に調和して IEEE 1394 にはアイソクロノス転送チャンネルのインタフェースが用意されています。アイソクロノスデータチャンネルは一定のクロック信号に合わせてデータ転送を行うもので、着実な転送が保証されます。これは時間要素が大きく効いてくるマルチメディアデータにとって特に有用で、データの即時転送によって手間のかかるバッファ処理を省くことができます。

パリティビット

パリティモードは各バイトに対して1パリティビットを使用し、通常はメモリデータ更新時には各バイトのパリティビットは偶数の"1"が含まれる偶数パリティモードとなります。次回メモリに奇数の"1"が読み込まれるなら、パリティエラーが発生したことになり、単ビットエラー検出と呼ばれます。

PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM)

Socket 7 CPU では、1回のバーストデータ読み込みで4QWord (Quad-word, $4 \times 16 = 64$ ビット)が必要です。PBSRAMは1つのアドレスデコード時間が必要なだけで、残りの Qwords の CPU 転送は予め決められたシーケンスで行われます。通常これは3-1-1-1の合計6クロックで、非同期SRAMより高速です。PBSRAMはSocket 7 CPUのL2 (level 2) キャッシュにたびたび使用されます。Slot 1 および Socket 370 CPU はPBSRAMを必要としません。

PC-100 DIMM

[SDRAM](#) DIMMのうち、100MHz CPU [FSB](#)バスクロックをサポートするものです。

PC-133 DIMM

[SDRAM](#) DIMMのうち、133MHz CPU [FSB](#)バスクロックをサポートするものです。

PC-1600 および PC-2100 DDR DRAM

FSB クロックにより、DDR DRAM は動作クロック 200MHz と 266MHz の 2 タイプがあります。DDR DRAM のデータバスは 64-ビットなので、データ転送速度は $200 \times 64 / 8 = 1600 \text{MB/s}$ 及び $266 \times 64 / 8 = 2100 \text{MB/s}$ となります。以上より PC-1600 DDR DRAM は 100MHz を、PC-2100 DDR DRAM は 133MHz FSB クロックを使用していることがわかります。

PCI (ペリフェラルコンポーネントインタフェース)バス

コンピュータと拡張カード間の周辺機器内部での高速データ転送チャンネルです。

PDF フォーマット

電子式文書の形式の一種である PDF フォーマットはプラットフォームに依存しないもので、PDF ファイル読み込みには Windows, Unix, Linux, Mac ...用の各 PDF Reader を使用します。PDF ファイル表示には IE および Netscape のウェブブラウザも使用できますが、この場合 PDF プラグイン (Acrobat Reader を含む)をインストールしておく必要があります。

PnP(プラグアンドプレイ)

PnP 規格は BIOS およびオペレーションシステム (Windows 95 等)の双方に標準レジスタインタフェースを必要とします。これらレジスタは BIOS とオペレーションシステムによるシステムリソースの設定および競合の防止に使用されます。IRQ/DMA/メモリは PnP BIOS またはオペレーションシステムにより自動割り当てされます。現在、PCI カードのほとんどおよび大部分の ISA カードは PnP 対応済です。

POST (電源投入時の自己診断)

電源投入後の BIOS の自己診断手続きは、通常、システム起動時の最初または 2 番目の画面で実行されます。

RDRAM (Rambus DRAM)

ラムバスは大量バーストモードデータ転送を利用するメモリ技術です。理論的にはデータ転送速度はSDRAMよりも高速です。RDRAM チャンネル操作でカスケード処理されます。Intel 820 の場合、1 つの RDRAM チャンネルのみが認められ、各チャンネルは 16 ビットデータ長、チャンネルに接続可能な RDRAM デバイスは最大 32 であり、RIMM ソケット数は無関係です。

RIMM (Rambus インラインメモリモジュール)

RDRAM メモリ技術をサポートする 184 ピンのメモリモジュールです。RIMM メモリモジュールは最大 16 RDRAM デバイスを接続できます。

SDRAM (同期 DRAM)

SDRAM は DRAM 技術の一つで、DRAM が CPU ホストバスと同じクロックを使用するようにしたものです (EDO および FPM は非同期型でクロック信号は持ちません)。これはPBSRAMがバーストモード転送を行うのと類似しています。SDRAM は 64 ビット 168 ピンDIMMの形式で、3.3V で動作します。AOpen は 1996 年第 1 四半期よりデュアル SDRAM DIMM をオンボード(AP5V) でサポートする初のメーカーとなっています。

シャドウ E²PROM

E²PROM 動作をシミュレートするフラッシュ ROM のメモリ領域のことで、AOpen マザーボードはシャドウ E²PROM によりジャンパーおよびバッテリー不要の設計となっています。

SIMM (シングルインラインメモリモジュール)

SIMM のソケットは 72 ピンで片面だけです。PCB 上のゴールデンフィンガーは両側とも同じです。これがシングルインラインと言われる所以です。SIMM は FPM または [EDO DRAM](#) によって構成され、32 ビットデータをサポートします。SIMM は現在のマザーボード上では徐々に見られなくなっています。

SMBus (システムマネジメントバス)

SMBus は I2C バスとも呼ばれます。これはコンポーネント間のコミュニケーション(特に半導体 IC)用に設計された 2 線式のバスです。使用例としては、ジャンパーレスマザーボードのクロックジェネレーターのカロック設定があります。SMBus のデータ転送速度は 100Kbit/s しかなく、1 つのホストと CPU または複数のマスターと複数のスレーブ間でのデータ転送に利用されます。

SPD (既存シリアル検出)

SPD は小さな ROM または [EEPROM](#) デバイスで [DIMM](#) または [RIMM](#) 上に置かれます。SPD には DRAM タイミングやチップパラメータ等のメモリモジュール情報が保存されています。SPD はこの DIMM や RIMM 用に最適なタイミングを決定するのに [BIOS](#) によって使用されます。

Ultra DMA

Ultra DMA (または、より正確には Ultra DMA/33) は、ハードディスクからコンピュータのデータバス (またはバス) 経由でのコンピュータのランダムアクセスメモリ (RAM) へのデータ転送プロトコルです。Ultra DMA/33 プロトコルでは、バーストモードで従来の[ダイレクトアクセスメモリ \(DMA\)](#) の 2 倍である 33.3MB/s のデータ転送速度を実現します。Ultra DMA はハードディスクメーカーの Quantum corp 社及びチップセットとコンピュータバステクノロジーメーカーの Intel 社によって提案された工業仕様です。お手持ちのコンピュータで Ultra DMA をサポートしている場合、システム起動及びアプリケーション起動が速いことを意味します。またユーザーがグラフィックス中心やハードディスク上の多量データへのアクセスを要するアプリケーションを使用する際の支援をします。Ultra DMA はサイクリカルリダンダンシーチェック (CRC) をサポートし、一歩進んだデータ保護を行います。Ultra DMA には、PIO や DMA と同様、40 ピン IDE インタフェースケーブルを使用します。

16.6MB/s x2 = 33MB/s

16.6MB/s x4 = 66MB/s

16.6MB/s x6 = 100MB/s

USB (ユニバーサルシリアルバス)

USB は 4 ピンのシリアル周辺用バスで、キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、プリンタ、モデム等の低・中速周辺機器 (10Mbit/s 以下) がカスケード接続できます。USB により、従来の PC 後部パネルの組み込んだ配線は不要になります。

VCM(バーチャルチャンネルメモリ)

NEC 社の'バーチャルチャンネルメモリ (VCM)はメモリシステムのマルチメディアサポート能力を大幅に向上させる、新しい DRAM コア構造です。VCM は、メモリコアおよび I/O ピン間に高速な静的レジスタセットを用意することで、メモリパス効率および DRAM テクノロジーの全体的性能を向上させます。VCM テクノロジーにより、データアクセスのレイテンシは減少し、電力消費も減少します。

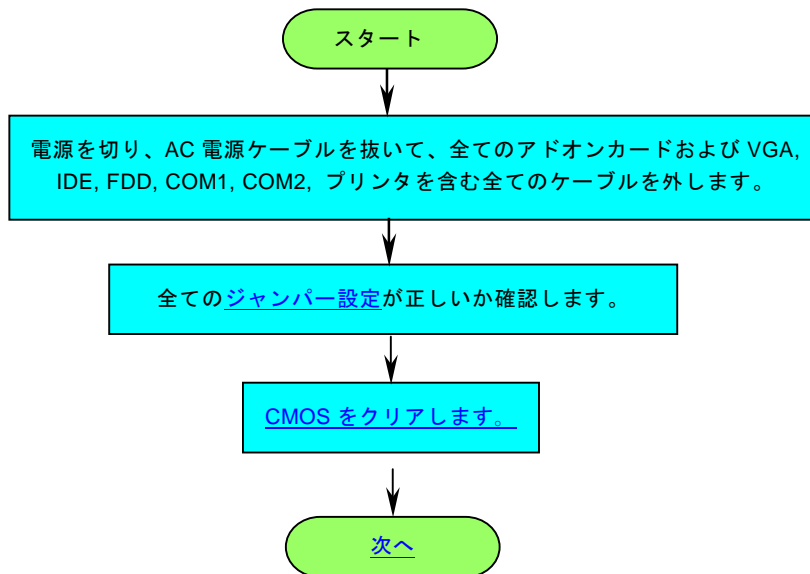
ZIP ファイル

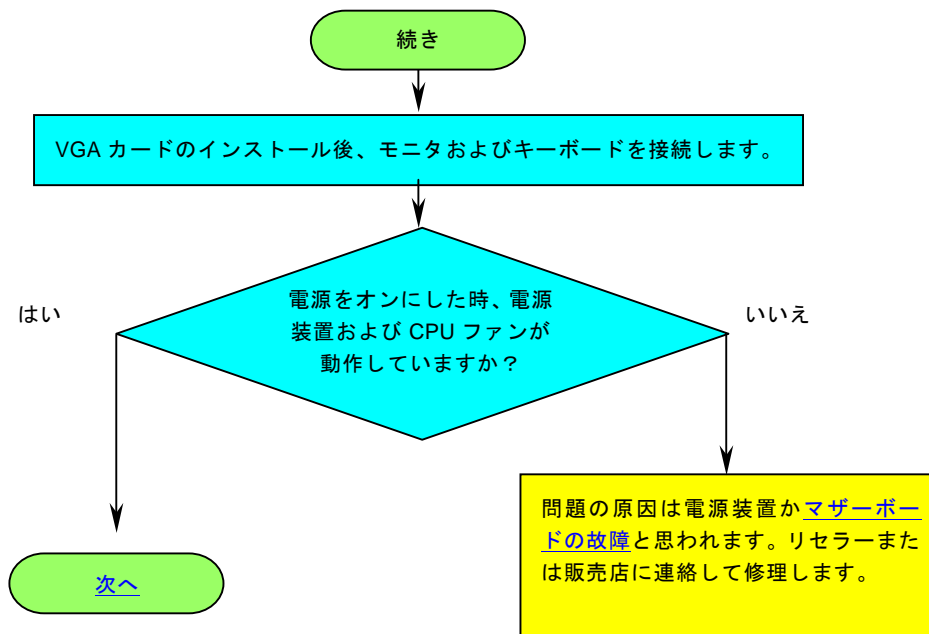
ファイルサイズを小さくするよう圧縮されたファイル。ファイルの解凍には、DOS モードや Windows 以外のオペレーションシステムではシェアウェアの PKUNZIP (<http://www.pkware.com/>) を、Windows 環境では WINZIP (<http://www.winzip.com/>)を使用します。

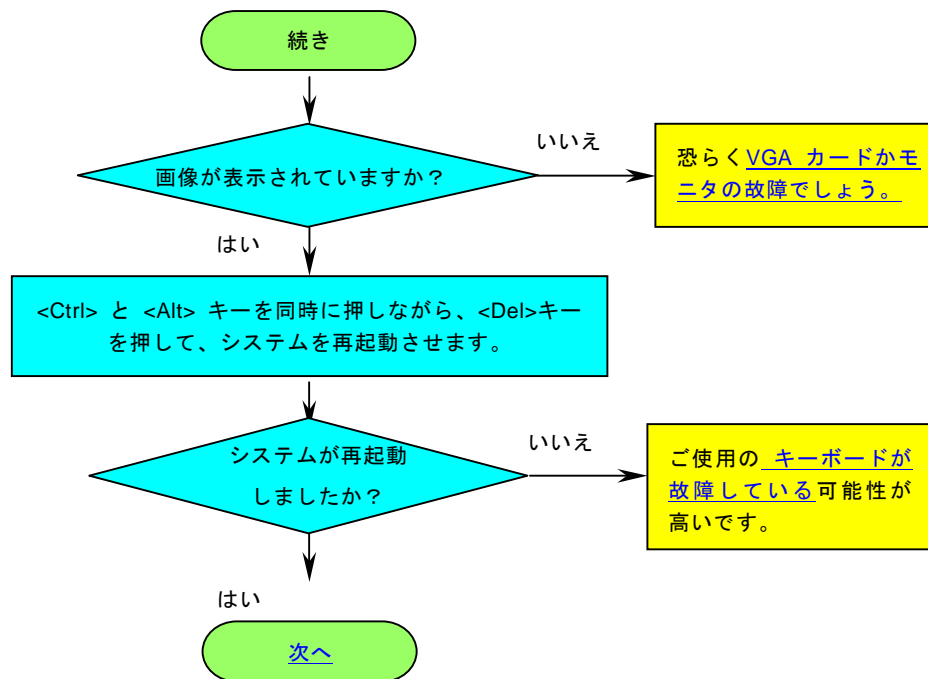


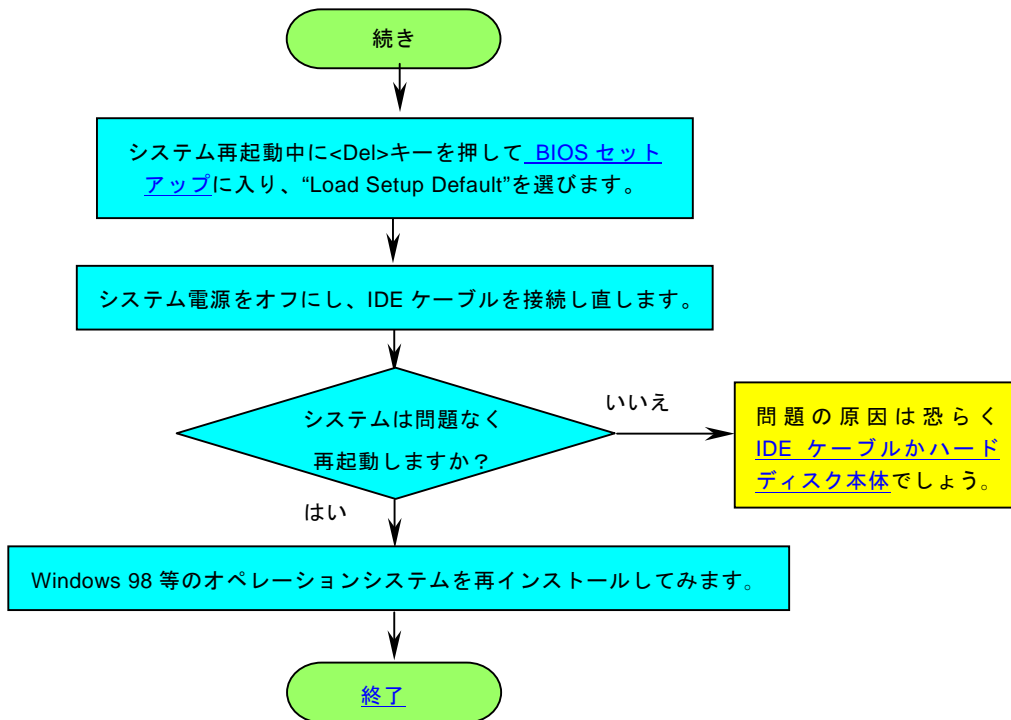
トラブルシューティング

システム起動時に何らかの問題が生じた場合は、以下の手順で問題を解決します。











テクニカルサポート

お客様各位へ

この度は、Aopen 製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。お客様への最善かつ迅速なサービスが弊社の最優先するところでございます。しかしながら、毎日世界中から E メール及び電話での問い合わせが無数であり、全ての方に遅れずにサービスをご提供いたすことは極めて困難でございます。弊社にご連絡になる前に、まず下記の手順で必要な解決法をご確認になることをお勧めいたします。皆様のご協力で、より多くのお客様に最善のサービスをご提供していただけます。

皆様のご理解に深く感謝を申し上げます!

AOpen テクニカルサポートチーム一同

1

オンラインマニュアル: マニュアルを注意深くお読みになり、ジャンパー設定及びインストール手順が正しく行われることを確認してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/manual/default.htm>

2

テストレポート: 自作パソコンのための互換性テストレポートより、マザーボード、アドンカード及びデバイスを選択するようお勧めいたします。

<http://www.aopen.co.jp/tech/report/default.htm>

3

FAQ: 最新の FAQ (よく尋ねられた質問) よりトラブルの解決法が発見するかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/faq/default.htm>

4

ソフトウェアのダウンロード: アップデートされた最新 BIOS、ユーティリティ及びドライバをチェックして取得してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/default.htm>

5

ニュースグループ: お抱えになっているトラブルに関して、弊社のエンジニアもしくはパワーユーザーよりその解決法をニュースグループに掲載されているかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/newsgrp/default.htm>

6

販売店及びリセラーへのご連絡: 弊社は当社製品をリセラー及びSIを経由して販売しております。彼らはお客様のパソコン状況をよく知り、弊社より効率的にトラブルを解決することができます。彼らのサービス次第、お客様が彼らに別の製品を購入する意思が大きく左右されます。

7

弊社へのご連絡: 弊社までご連絡になる前に、システムに関する詳細情報及びエラー状況を確認して、必要に応じてご提供を求められる場合もあります。パーツナンバー、シリアルナンバー及び BIOS バージョンなどの情報提供も非常に役に立ちます。

パーツナンバー及びシリアルナンバー

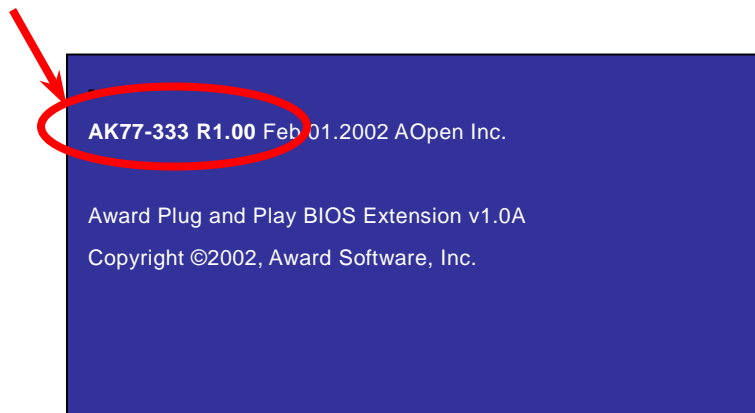
パーツナンバー及びシリアルナンバーがバーコードラベルに印刷されています。バーコードラベルは包装の外側、ISA/CPU スロットまたは PCB のコンポーネント側にあります。以下は一例です。



P/N: 91.88110.201 がパーツナンバーで、S/N: 91949378KN73 がシリアルナンバーです。

モデルネーム及びBIOSバージョン

モデルネーム及び BIOS バージョンがシステム起動時の画面 ([POST](#)画面)の左上に表示されます。以下は一例です。



AK77-333 がマザーボードのモデルネームで、R1.00 が BIOS バージョンです。



製品の登録



Aopen 製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。製品登録により、弊社からの万全たるサービスが保証されますので、是非下記の製品登録手続きを済ますようお勧め致します。製品登録後のサービスは以下の通りです。

- オンラインのスロットマシンゲームに参加して、ボーナス点数を累積して **Aopen** の景品と引き換えることができます。
- クラブ **Aopen** プログラムのゴールドメンバーにアップグレードされます。
- 製品の安全性に関する注意の電子メールが届きます。製品に技術上注意すべき点があれば、便利な電子メールで迅速にユーザーに通知することはその目的です。
- 製品に関する最新情報が電子メールで届けられます。
- **Aopen** のウェブサイトにおける個人ページを有することができます。
- BIOS/ドライバ/ソフトウェアの最新リリース情報が電子メールで届けられます。
- 特別な製品キャンペーンに参加する機会があります。
- 世界中の **Aopen** 専門家からの技術サポートを受ける優先権があります。
- ウェブ上のニュースグループでの情報交換が可能です。

お客様からの情報は暗号化されていますので、他人や他社により流用される心配はございません。なお、**Aopen** はお客様からのいかなる情報も公開はいたしません。弊社のプライバシー方針に関する詳細は、[オンラインでのプライバシーの指針](#)をご覧ください。

注意: 製品が相異なる販売店やリテラーから購入された場合、或いは購入の日付が同一でない場合において、各製品別に製品登録してください。



弊社へのご連絡



弊社製品に関するご質問は何なりとお知らせください。皆様のご意見をお待ちしております。

太平洋地域

AOpen Inc.

Tel: 886-2-3789-5888

Fax: 886-2-3789-5899

ヨーロッパ

AOpen Computer b.v.

Tel: 31-73-645-9516

Fax: 31-73-645-9604

アメリカ

AOpen America Inc.

Tel: 1-510-498-8928

Fax: 1-408-922-2935

中国

艾尔鹏国际上海(股)有限公司

Tel: 86-21-6225-8622

Fax: 86-21-6225-7926

ドイツ

AOpen Computer GmbH.

Tel: 49-2102-157700

Fax: 49-2102-157799

日本

AOpen Japan Inc.

Tel: 81-048-290-1800

Fax: 81-048-290-1820

ウェブサイト : <http://www.aopen.com>

Eメール : 下記のご連絡フォームをご利用になりメールでご連絡ください。

英語 <http://www.aopen.com/tech/contact/techusa.htm>

日本語 <http://www.aopen.co.jp/tech/contact/techjp.htm>

中国語 <http://www.aopen.com.tw/tech/contact/techtw.htm>

ドイツ語 <http://www.aopencom.de/tech/contact/techde.htm>

フランス語 <http://france.aopen.com/tech/contact/techfr.htm>

簡体字中国語 <http://www.aopen.com.cn/tech/contact/techcn.htm>

